

平成28年度「先導的大学改革推進委託事業」

インターンシップ推進のための
課題及び具体的効果・有用性
に関する調査研究

報告書

平成29年3月

株式会社リクルートキャリア

就職みらい研究所

目次

第1章 調査概要	1
(1) 調査目的と調査内容	1
① 学生	1
② 企業	2
③ 大学	2
(2) 本報告書の見方について	3
(3) 回答者プロフィール	5
① 学生	5
② 企業	8
③ 大学	11
第2章 インターンシップの実施状況と具体的内容	13
(1) 実施状況	13
① 学生の参加	13
② 企業の実施	21
③ 大学の実施/送り出し	30
(2) 選考の実態	43
① 学生	43
② 企業	44
③ 大学	47
(3) インターンシップの具体的内容	49
① 学生	49
② 企業	53
③ 大学	57
第3章 教育的効果の検証	60
(1) 期待と成果、単位認定の実態	60
① 学生	60
② 企業	82
③ 大学	98
(2) 学生指導の実態	114
① 学生	114
② 企業	115

(3)目標設定とその共有状況	118
①学生	118
②企業	121
③大学	123
(4)目的すり合わせの状況	126
①学生	126
②企業	128
③大学	131
(5)事前事後教育の状況	134
①学生	134
②企業	138
③大学	142
(6)フィードバックの状況	146
①学生	146
②企業	149
③大学	152
(7)報酬の実態	155
①学生	155
②企業	156
(8)振り返り/他の活動への連携	157
②企業	157
③大学	158
第4章 就職・採用活動との関係	160
(1)就職・採用活動との関係の実態	160
①学生	160
②企業	166
③大学	169
(2)就職・採用活動との関係についての意向	171
①学生	171
③-1 大学（インターン実施）	172
③-2 大学（インターン非実施）	174

第5章	さらなる推進に向けた課題	176
(1)	インターンシップの満足度	176
①	学生	176
②	企業	179
③	大学	182
(2)	参加/実施に関する課題	187
①	学生	187
②	企業	191
③	大学	205
第6章	インターンシップの量的拡大・質的向上に向けて	224
(1)	量的拡大の課題と解決策の方向性	224
①	学生	224
②	企業	228
③	大学	231
(2)	質的充実の課題と解決策の方向性	232
①	学生	232
②	企業	238
③	大学	246
<参考>	特定の資格取得に関する実習との比較	253
①	学生	253
付表		264
(1)	基本集計表	
(2)	調査票	
①	学生	
②	企業	
③	大学	
(3)	概要版	

第1章 調査概要

(1)調査目的と調査内容

「日本再興戦略」改訂 2015（平成 27 年 6 月 30 日閣議決定）や自民党教育再生実行本部第六次提言（平成 28 年 4 月 4 日）等において「大学等におけるインターンシップの推進」が指摘されていることなどから、大学等に対してインターンシップのさらなる実施を促し、取組をより加速させる必要がある。そのため、本調査研究では、インターンシップを実施・単位化するうえでの大学等の課題、参加する学生にとっての課題、学生の受入れを行う企業等の課題を明確にしたうえで、当該課題を解決するためのノウハウを整理するとともに、大学等、学生、企業等にとってのインターンシップのより具体的な教育効果や有用性（メリット）等を明確にするための実態把握を行い、インターンシップのさらなる推進に寄与することを目的とする。

また、就職・採用活動開始前に行われるインターンシップが就職・採用活動そのものとならないよう留意する必要があることから、インターンシップに関して、就職・採用活動との関係における大学等、学生、企業等にとっての実態やニーズ等の調査を行い、適正なインターンシップの普及に努めることを目的とする。

※本調査における「インターンシップ」の定義

＝学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験

・企業等における実習がないもの、特定の資格取得に関係するもの（教育実習、看護実習、臨床実習等）は含まない

本調査では、①学生、②企業、③大学に対してアンケートを実施した。

各調査の概要は以下のとおりである。

①学生

- 調査票タイトル：学生生活に関するアンケート
- 調査対象：全国の国公私立の大学・短大及び高等専門学校に通う学生
- 調査会社の登録モニターに対し、文部科学省の学校基本調査をもとに、地域 6 区分（北海道東北/関東/中部/関西/中国四国/九州沖縄）、学校種学年（大学 1-2 年生/大学 3 年生/大学 4-6 年生/大学院生（修士+博士）/短大生+高専生）の構成比割付で告知をして回収
- 調査方法：インターネットリサーチ
- 実査期間：2016 年 10 月 24 日～11 月 2 日
- 回収数：3,386 名
- インターンシップの具体に関する設問については、インターンシップ経験者 1,033 名が、「1 日以上 2 週間未満（1～10 営業日）」と「2 週間（11 営業日）以上」のそれぞれについて、主なものを特定して回答。のべ回答数は 1,083 件

②企業

- 調査票タイトル：インターンシップ推進のための効果・有用性に関するアンケート
- 調査対象：全国の従業員数5名以上の、新卒採用実施企業
- 会社四季報を台帳とし、上場企業/未上場企業を地域6区分（北海道東北/関東/中部/関西/中国四国/九州沖縄）、従業員規模4区分（5-99名/100-299名、300-999名/1000名以上）で構成比割付で抽出した2,500社
- 調査方法：文部科学省の調査である旨を示した封筒により調査票を郵送配布し、郵送で回答を受付
- 実査期間：2016年10月26日～11月18日
- 回収数（2017年1月6日）：701社
- インターンシップの具体に関する設問については、インターンシップ実施企業390社が、「受け入れ期間1日」「同2日以上2週間未満（2～10営業日）」「同2週間以上（11営業日以上）」のそれぞれについて、主なものを特定して回答。のべ回答数は511件

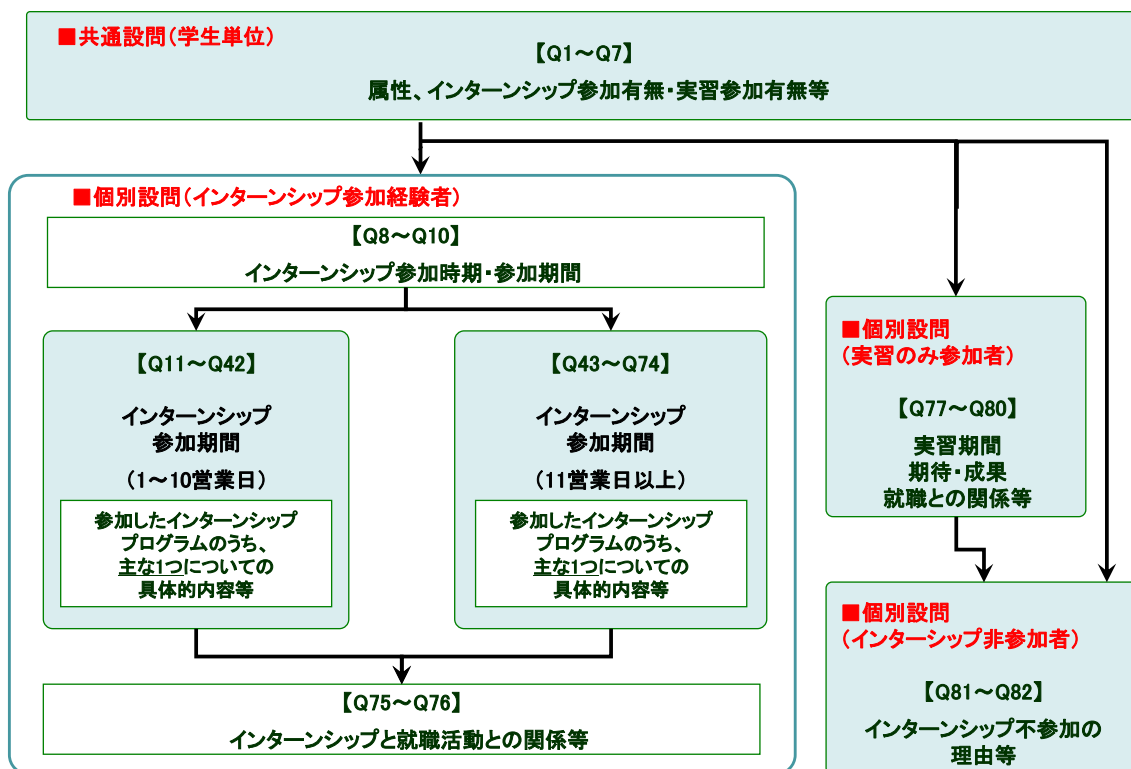
③大学

- 調査票タイトル：インターンシップ推進のための課題及び具体的効果・有用性に関する調査（大学・短期大学・高等専門学校）
- 調査対象：全国の大学・短大・高専1,182校
- インターンシップを学部学科毎に実施している学校については、「全ての学部及び研究科（大学の場合）/全ての学科・本科及び専攻科（短大・高専の場合）」、及び「キャリアセンター等（全学のキャリア教育担当組織）」のそれぞれの担当部署が回答
- インターンシップを全学共通科目としてのみ行っている場合は、「キャリアセンター等のインターンシップ担当部署」が回答
- 調査方法：文部科学省を通じて全国の大学・短大・高専に依頼した上で、専用WEBサイトに調査票を配置し、回答者のメール送信によって回収
- 実査期間：2016年10月24日～11月11日
- 回収数（2017年1月6日）：1,019校（回収率86.2%）、2,791件
- インターンシップの具体に関する設問については、インターンシップ実施学部・研究科・組織1,683学部等が、「実施期間1日～1週間未満」「同1週間以上2週間未満（6～10営業日）」「同2週間以上（11営業日以上）」のそれぞれについて、主なものを特定して回答。のべ回答数は2,666件

(2)本報告書の見方について

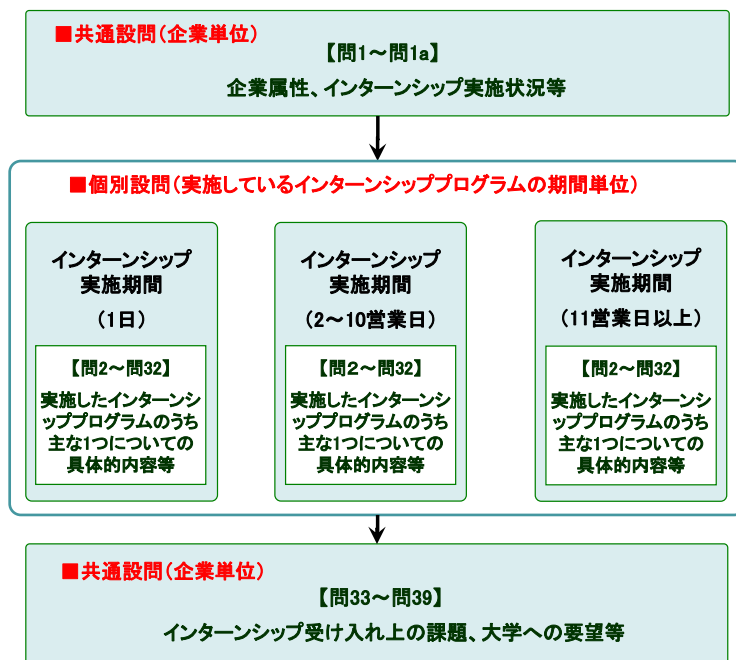
- グラフ及び集計表において表示している数値は、実数またはパーセンテージのいずれか（または両方）となります。
- 表示しているパーセンテージは、小数点以下 2 位を四捨五入しています。そのため、表示している単一回答方式の質問の集計結果の回答割合をすべて足しあげても、100%に満たない場合、また 100%を超過する場合があります。
- 1 件も回答がなかったものについては、集計表において「-」で示しており、グラフ上の表記は省略しています。
- 集計表において、回答結果の傾向を見やすくする目的で、最も回答割合の多かったものは濃い橙色、2 番目に回答割合の多かったものは薄い橙色で網掛けをしています。
- 学生の設問は Q1～Q82
 - そのうち Q8 から Q10 はインターンシップ実施者のみ。Q11～Q42 はインターンシップ実施期間「1 日」「2 日以上 1 週間未満（2～5 営業日）」「1 週間以上 2 週間未満（6～10 営業日）」のみ。Q43～Q74 は「2 週間（11 営業日）以上 1 か月未満」「1 か月以上 3 か月未満」「3 か月以上」のみ。Q75～Q76 はインターンシップ実施者のみ。Q77～Q80 は実習のみ参加者のみ。Q81～Q82 はインターンシップ実施者以外のみ。※Q11～42 と Q43～74 は同じ設問である。

図表 1-1 設問構成 (①学生)



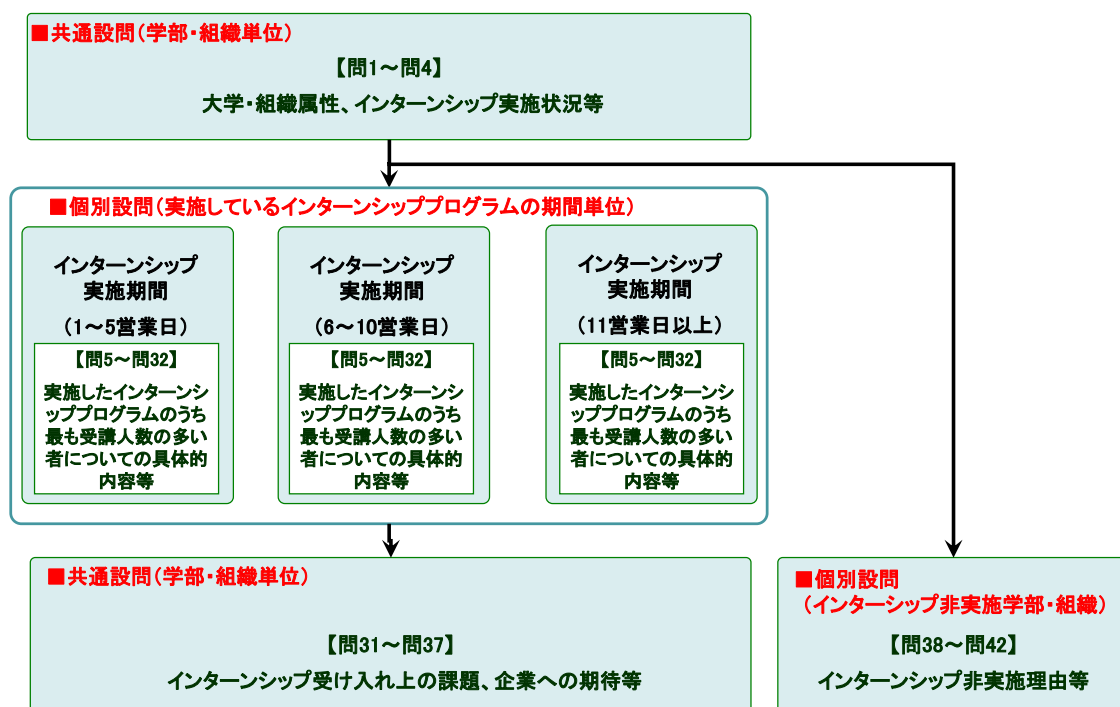
- 企業等の設問は、問 1～問 1a までは共通設問。問 2～問 32 は「1 日」「2～10 営業日」「11 営業日以上」でわかれている。問 33～問 39 は共通設問。

図表 1-2 設問構成 (②企業)



- 大学等の設問は、問 1～問 4 は共通設問。問 5～問 30 は「1～5 営業日」「6～10 営業日」「11 営業日以上」でわかれている。問 31～問 37 はインターンシップを実施している組織のみ。問 38～問 42 はインターンシップを実施していない組織のみ。

図表 1-3 設問構成 (③大学)



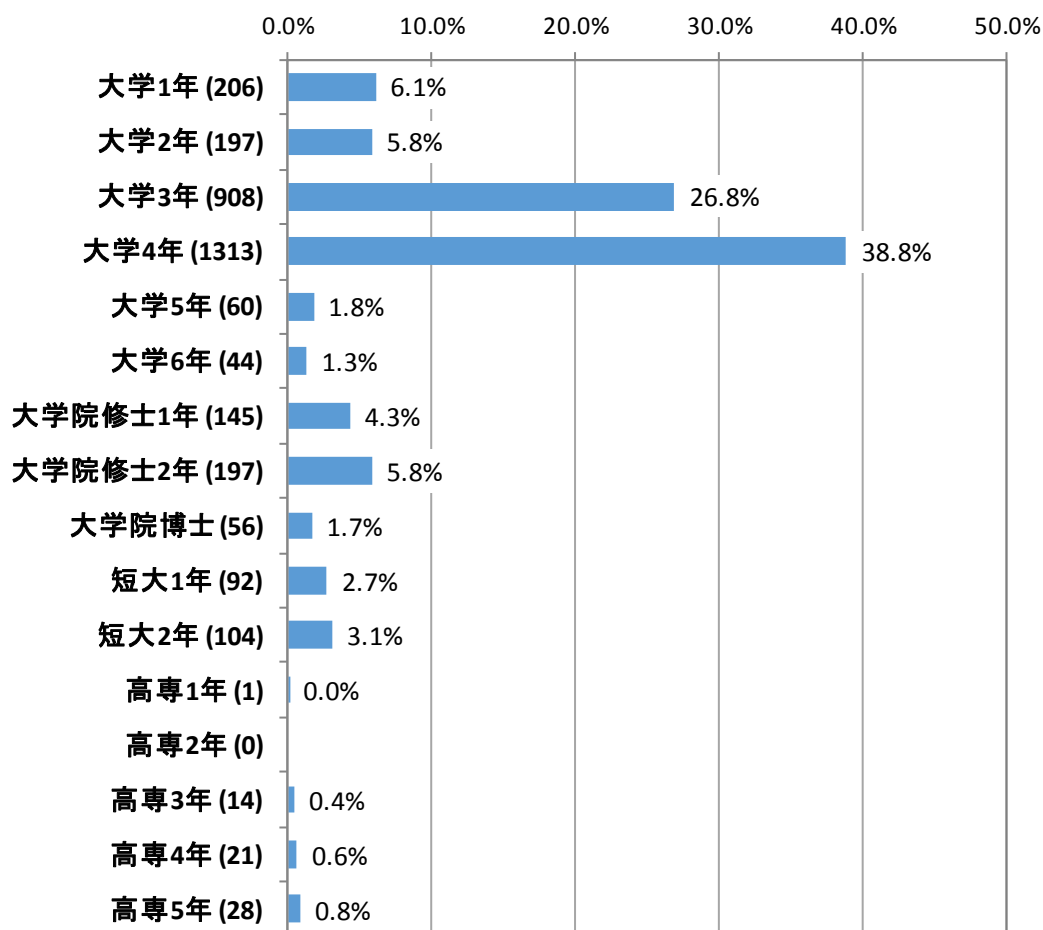
(3)回答者プロフィール

- 学生は、大学4～6年生が回答者全体の41.9%を占めている。
- 企業等は他に比べて関東・中部の割合が高い。
- 大学等は、大学・大学院が回答全体の69.0%である。

①学生

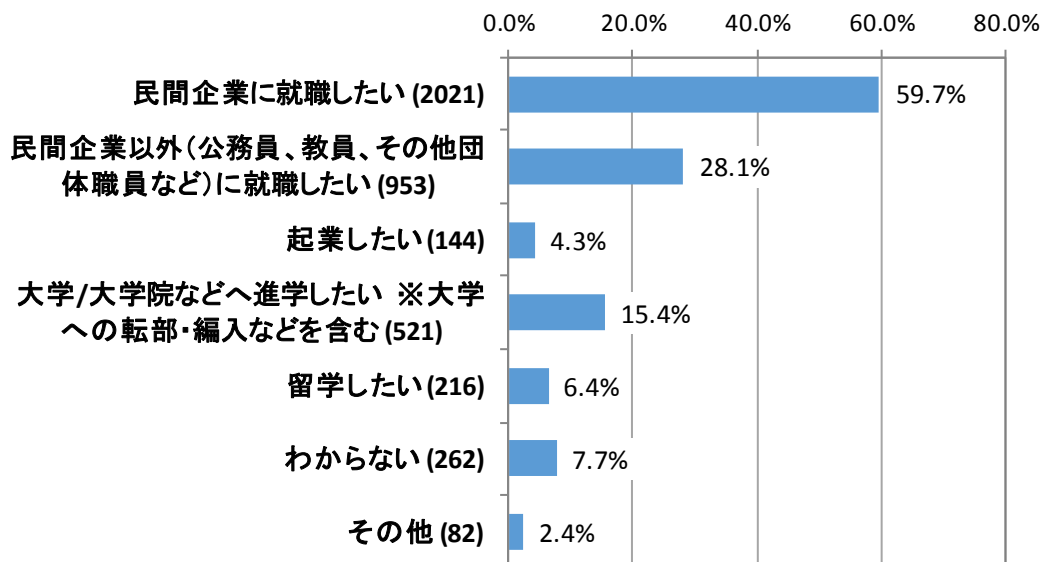
Q1:あなたの現在の学年をお答えください。(ひとつだけ)

図表 1-4 学年別対象者数 (n=3386)



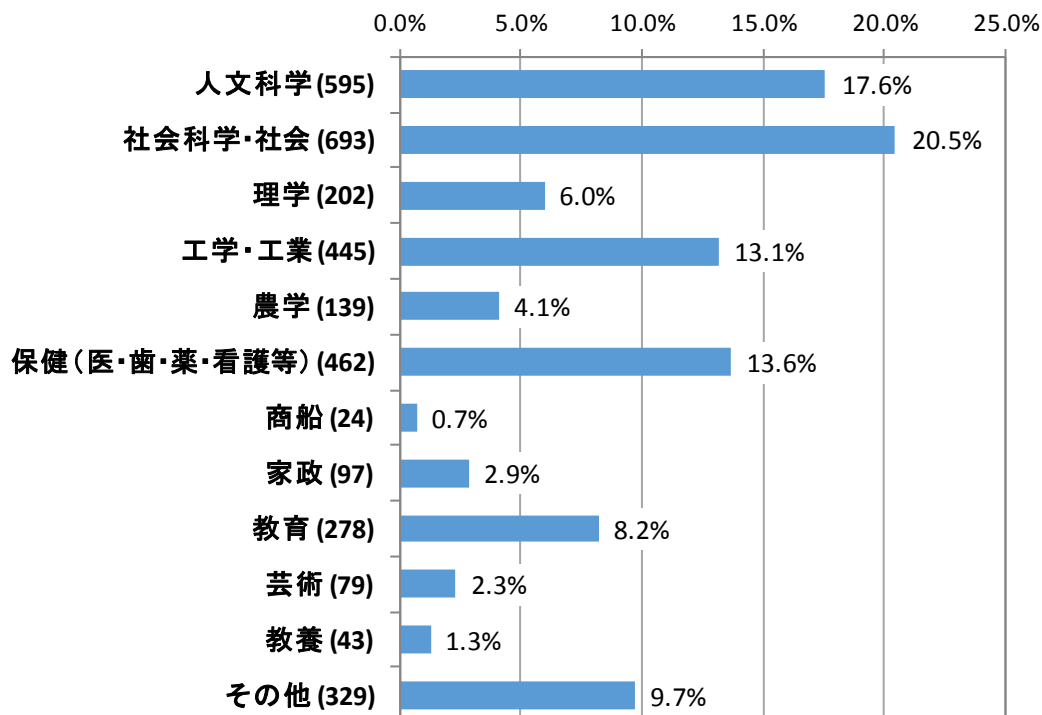
Q2:卒業後の志望進路として、あてはまるものをすべて教えてください。

図表 1-5 卒業後の志望進路 (n=3386)



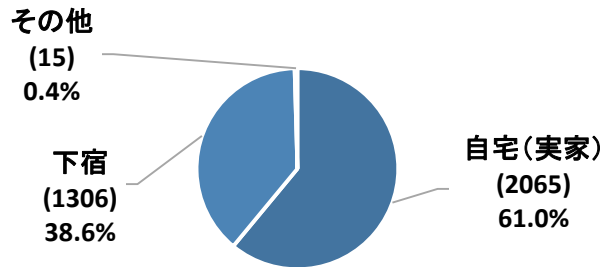
Q3:あなたが現在通っている学校での専攻分野をお答えください。(ひとつだけ)

図表 1-6 専攻分野 (n=3386)



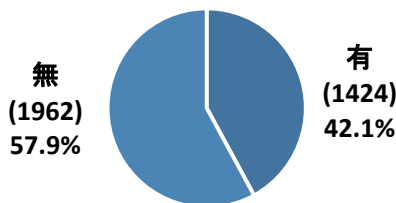
Q4: 居住状況をお答えください。(ひとつだけ)

図表 1-7 居住状況 (n=3386)



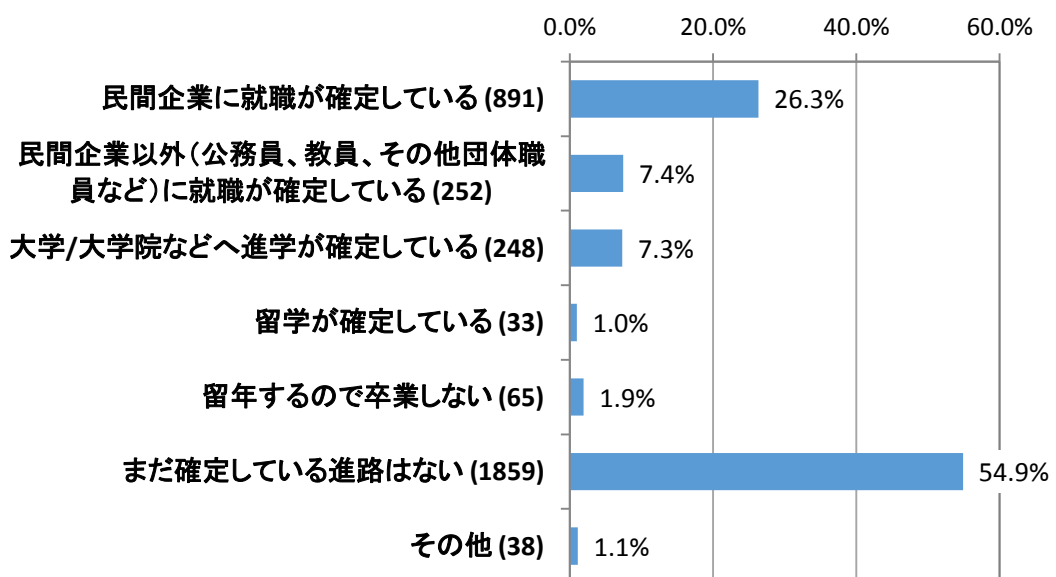
Q5: 奨学金受給有無をお答えください。(ひとつだけ)

図表 1-8 奨学金受給有無 (n=3386)



Q6: 進路確定状況をお答えください。(ひとつだけ)

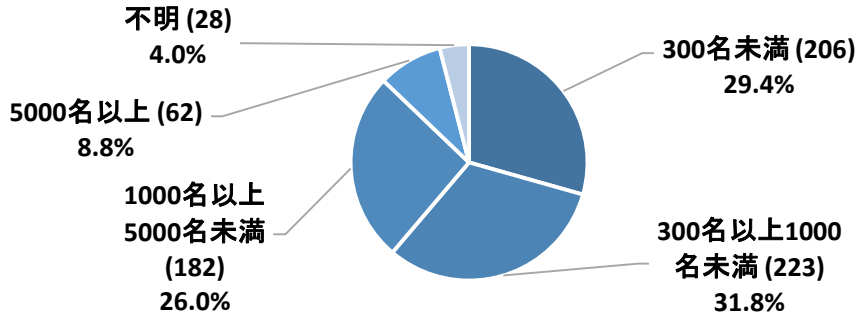
図表 1-9 進路確定状況 (n=3386)



②企業

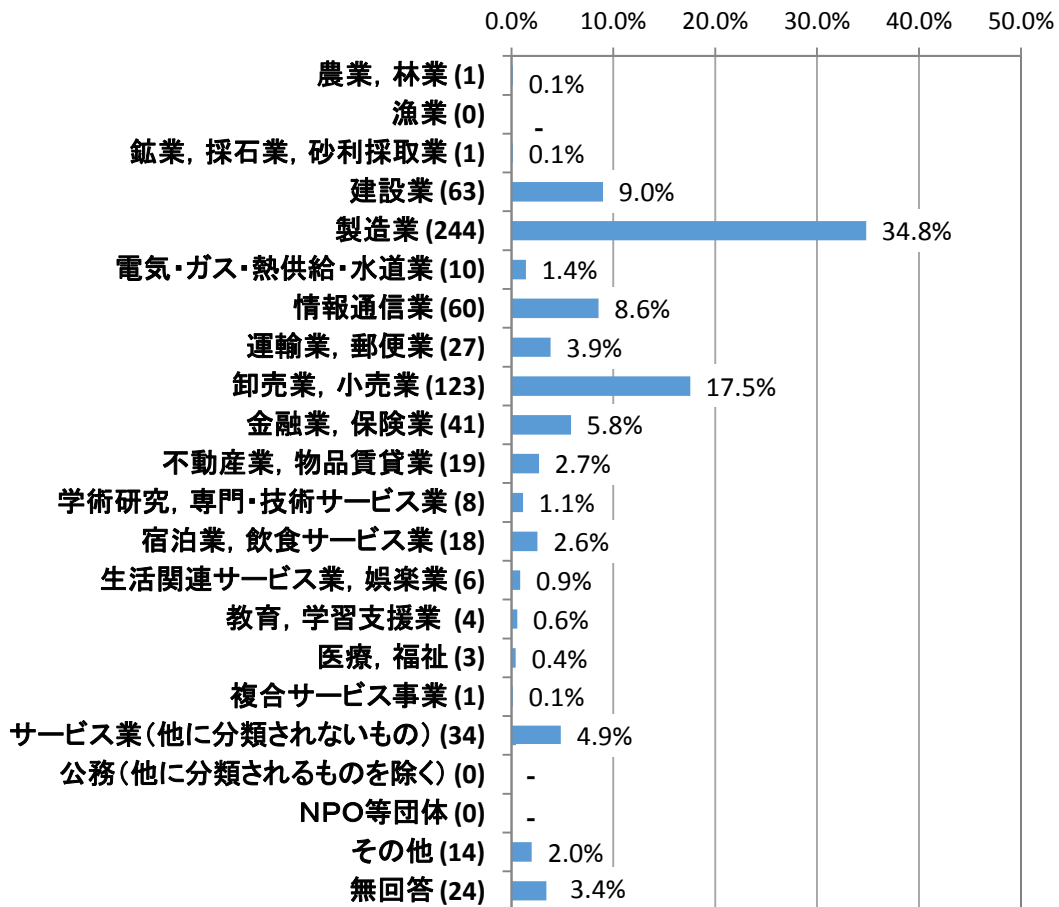
貴社およびご自身のことについておたずねします。(従業員数)(ひとつに○)

図表 1-10 従業員数 (n=701)



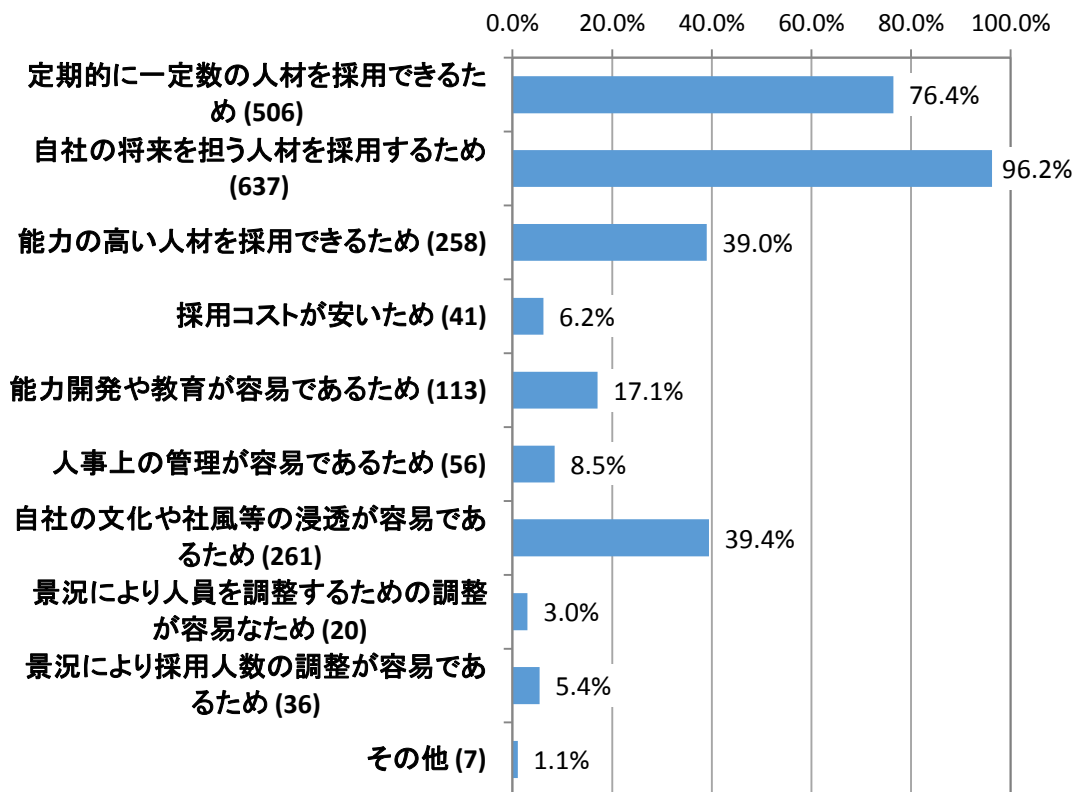
貴社およびご自身のことについておたずねします。業種(主業種)ひとつに○をつけてください。

図表 1-11 主業種 (n=701)



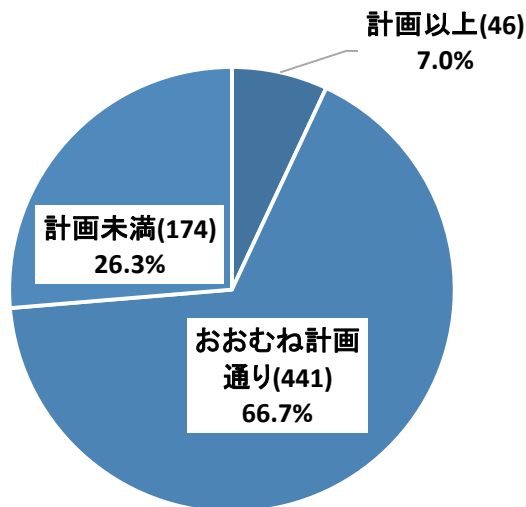
貴社についてお尋ねします(1)新卒採用の目的 (すべてに○)

図表 1-1 2 新卒採用の目的 (n=662)



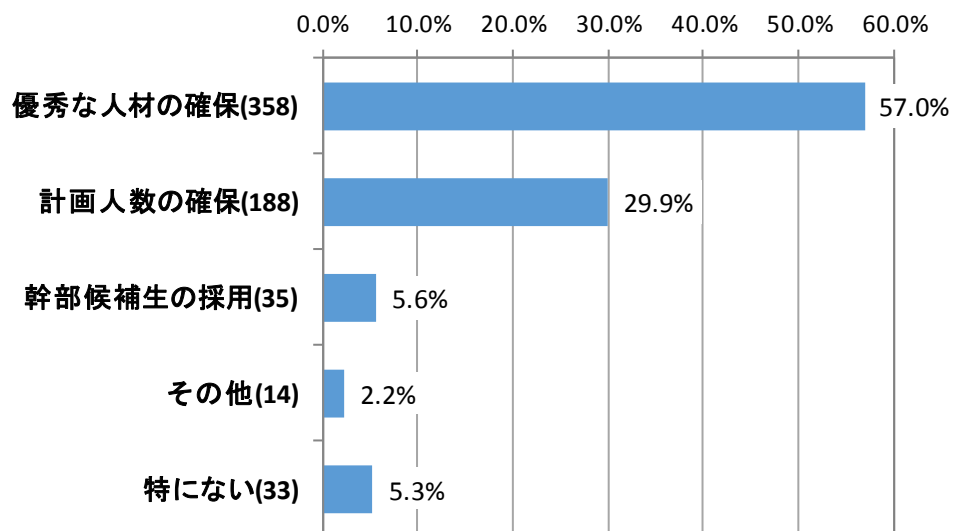
貴社についてお尋ねします(2)2016年卒の採用人数について (ひとつに○)

図表 1-1 3 2016年卒の採用人数について (n=661)



貴社についてお尋ねします(3)2017年卒の採用における課題について(主なひとつに〇)

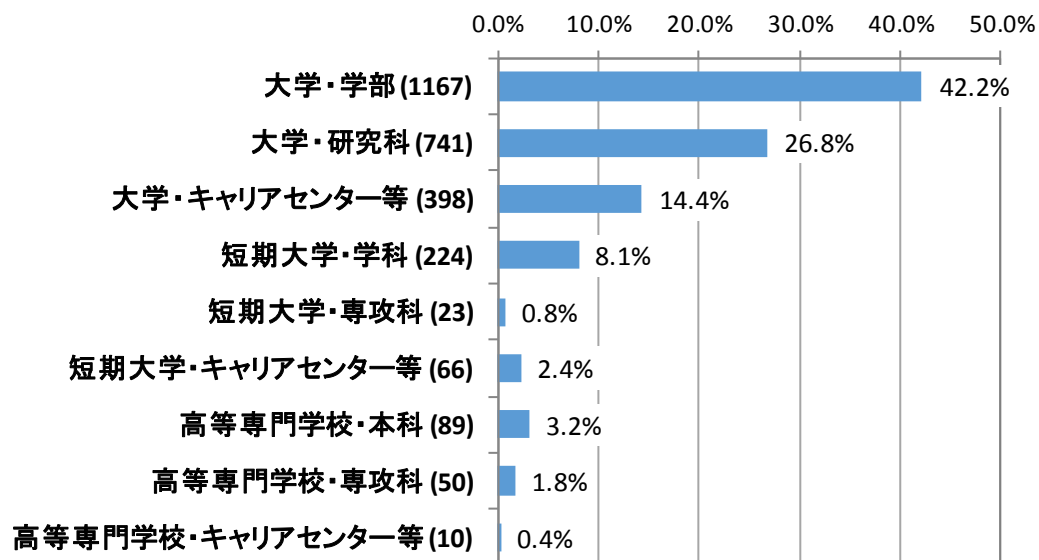
図表 1-14 2017年卒の採用における課題について(n=628)



③大学

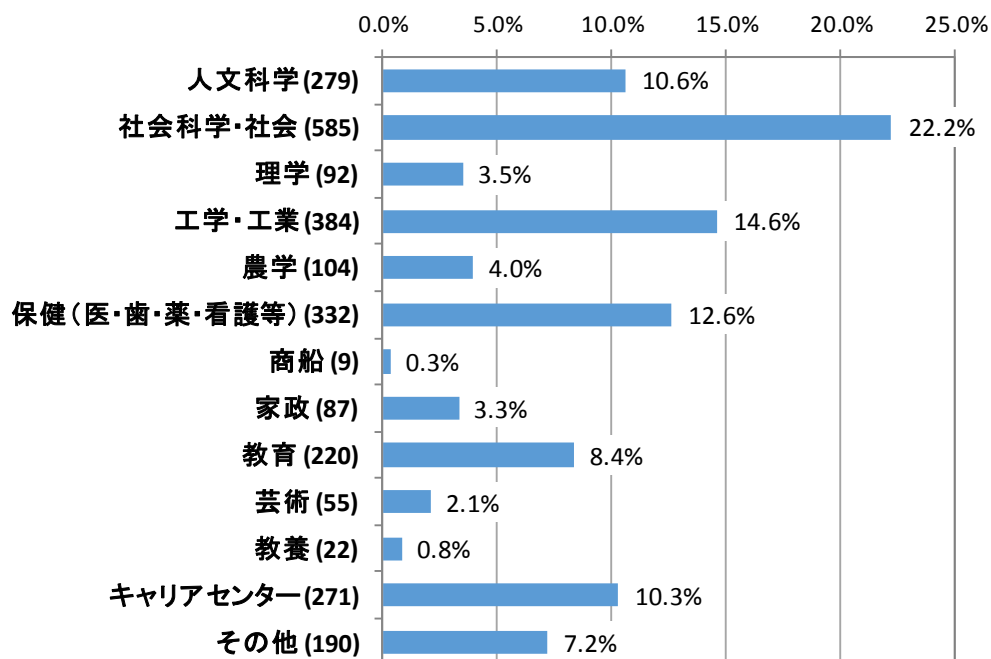
問1:学部・組織等情報、および回答者情報をご記入ください。(ひとつ)

図表 1-15 学部・組織等 (n=2768)

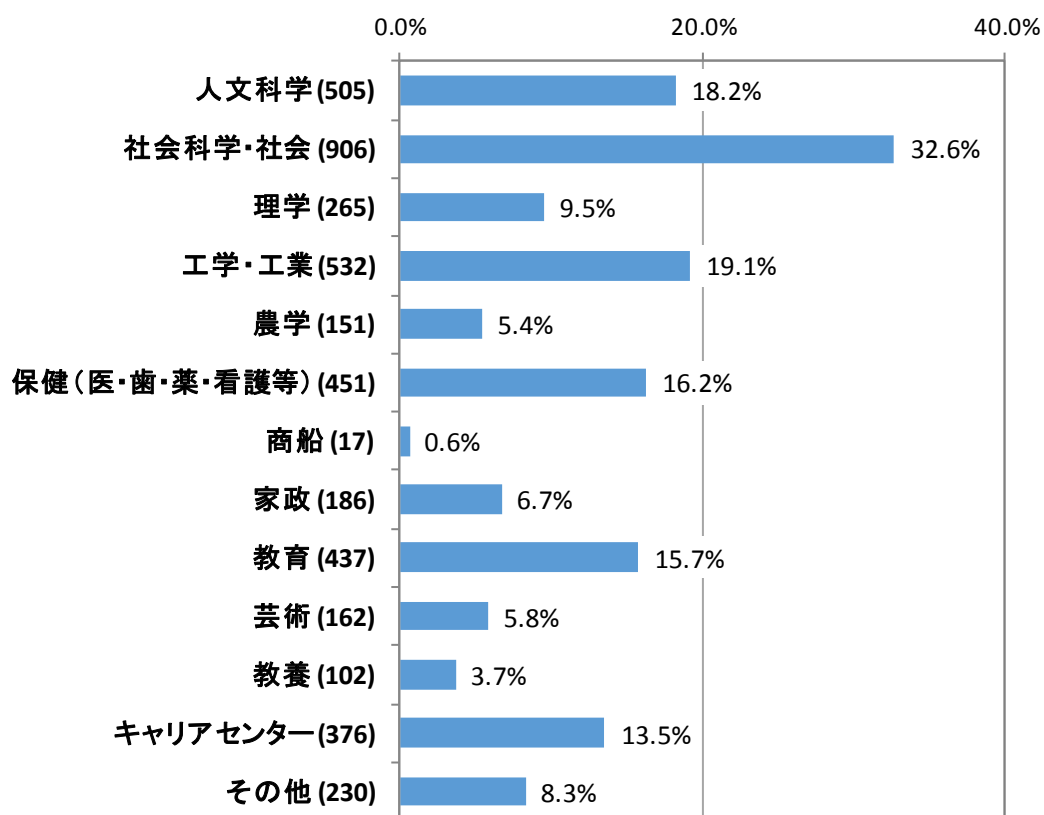


問2:貴学部・組織等の分野について、主要な分野1つに◎、該当する分野すべてに○をしてください。

図表 1-16 学部・組織等の分野 (主要な分野) (n=2630)



図表 1-17 学部・組織等の分野（該当する分野すべて）（n=2779）



第2章 インターンシップの実施状況と具体的内容

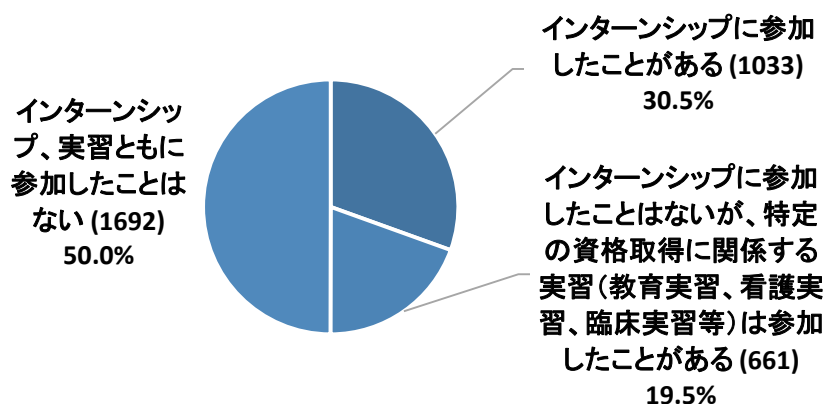
(1)実施状況

①学生の参加

- 「インターンシップに参加したことがある」学生は 30.5%である。
- インターンシップへの参加時期は「大学3年生」が 67.7%と最も高く、インターンシップへの参加期間は「1日」が 47.0%、「2日以上、1週間未満(2～5営業日)」が 44.0%と高い。
- インターンシップへの申し込み方法は「就職サイトや企業ホームページなどに掲載されたインターンシップ募集情報に申し込み」が 43.3%と最も高く、「自分から参加したい企業に直接、実施受け入れを依頼」を加えた“自主応募”が6割近くを占める。
- インターンシップへ参加のきっかけは「企業等の募集広告をみたから」が 27.0%で最も高い。
- インターンシップ先の主な業種は「製造業」が 12.6%と最も高く、次に「金融業、保険業」が 11.1%である。
- インターンシップ先の従業員数は「1～49人」が 24.6%で最も高く、インターンシップを行った部署は「営業」が 22.8%と最も高い。
- インターンシップに参加した時期は「夏休み」が 64.4%と最も高い。

Q7:あなたは現在通っている大学(短大・大学院)入学後(高専の方は高専入学以降)インターンシップ・実習に参加したことがありますか。(ひとつだけ)

図表 2-1 インターンシップ・実習への参加有無 (n=3386)

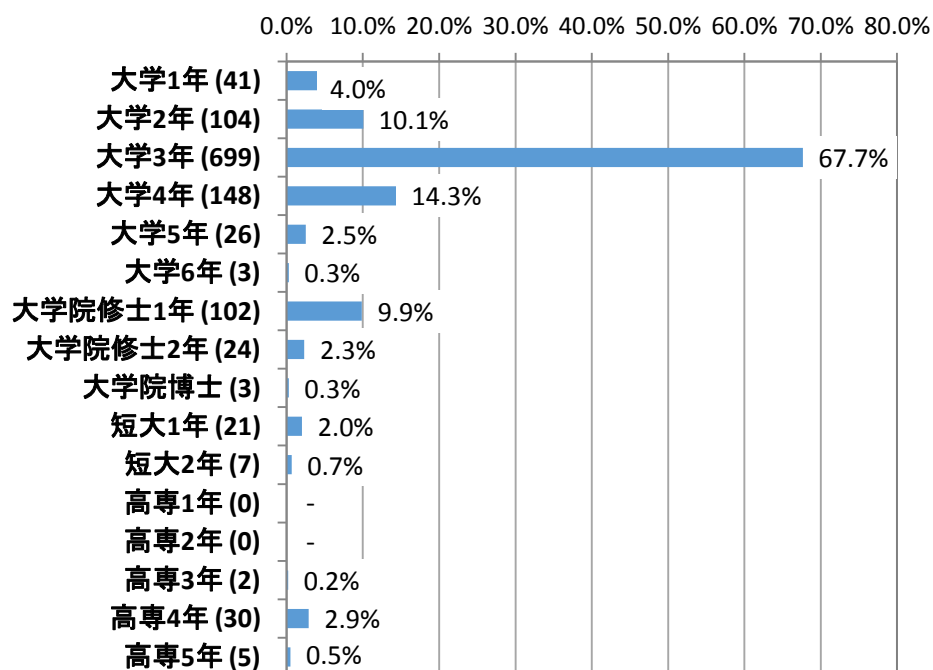


図表 2-2 インターンシップ・実習への参加有無<学生/学年別>

	全体	インターンシップに参加したことがある	インターンシップに参加したことはないが、特定の資格取得に関する実習(教育実習、看護実習、臨床実習等)は参加したことがある	インターンシップ、実習ともに参加したことはない
全体	3386 100.0%	1033 30.5%	661 19.5%	1692 50.0%
大学1~2年	403 100.0%	20 5.0%	52 12.9%	331 82.1%
大学3年以上	2325 100.0%	799 34.4%	464 20.0%	1062 45.7%
大学院	398 100.0%	154 38.7%	61 15.3%	183 46.0%
短大	196 100.0%	24 12.2%	82 41.8%	90 45.9%
高専1・2・3年	15 100.0%	—	1 6.7%	14 93.3%
高専4・5年	49 100.0%	36 73.5%	1 2.0%	12 24.5%

Q8:あなたが大学(短大・大学院)入学後(高専の方は高専入学以降)に、インターンシップに参加した時期をお答えください。(いくつでも)

図表 2-3 インターンシップに参加した時期 (n=1033)



Q9:これまでインターンシップに応募した企業等の数と参加した企業等の数をご記入ください。

図表 2-4 応募した企業等の数 (n=1033)

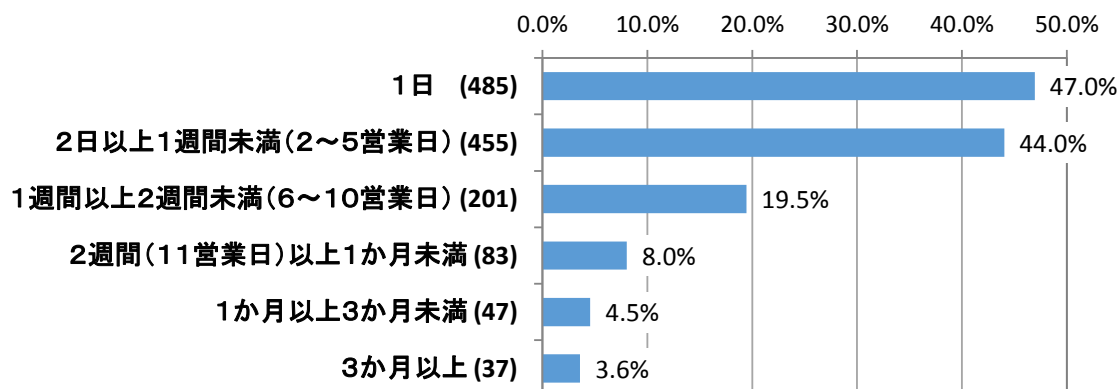
平均	4.01
最大	110
最小	0
回答件数	1033

図表 2-5 参加した企業等の数 (n=1033)

平均	2.38
最大	39
最小	1
回答件数	1033

Q10:インターンシップに参加した期間をお答えください。(いくつでも)

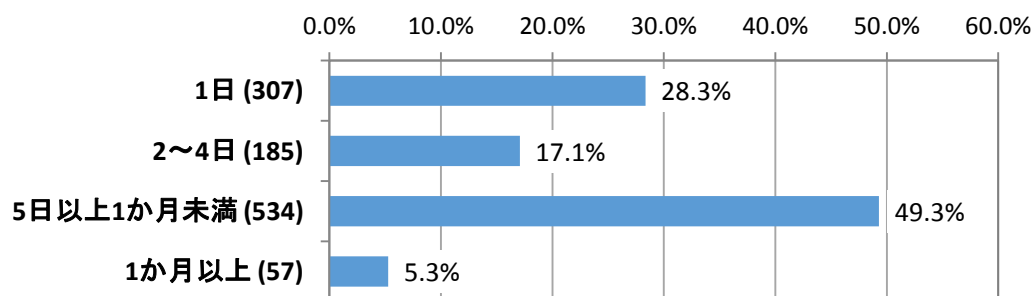
図表 2-6 インターンシップに参加した期間 (n=1033)



※Q11・Q43～Q19・Q51は、参加したインターンシップの期間ごとに質問をしているため、1名で2件回答をしている場合がある。

Q11・43:インターンシップについて具体的な日数を記入してください。※複数のインターンシップに参加された方は、主なもの一つについてお答えください。

図表 2-7 インターンシップの日数 (n=1083)

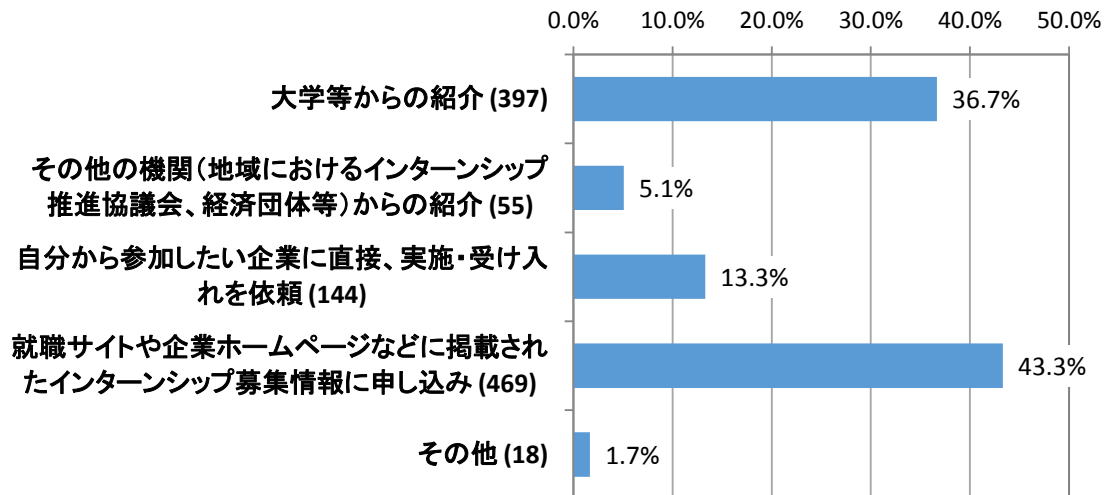


図表 2-8 インターンシップの日数<学生/学年別>

	全体	1日	2~4日	5日以上 1か月未満	1か月以上
全体	1083	307	185	534	57
	100.0%	28.3%	17.1%	49.3%	5.3%
大学1・2年	21	6	3	10	2
	100.0%	28.6%	14.3%	47.6%	9.5%
大学3年以上	837	270	147	381	39
	100.0%	32.3%	17.6%	45.5%	4.7%
大学院	164	27	27	94	16
	100.0%	16.5%	16.5%	57.3%	9.8%
短大	25	4	7	14	—
	100.0%	16.0%	28.0%	56.0%	—
高専1・2・3年	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
高専4・5年	36	—	1	35	—
	100.0%	—	2.8%	97.2%	—

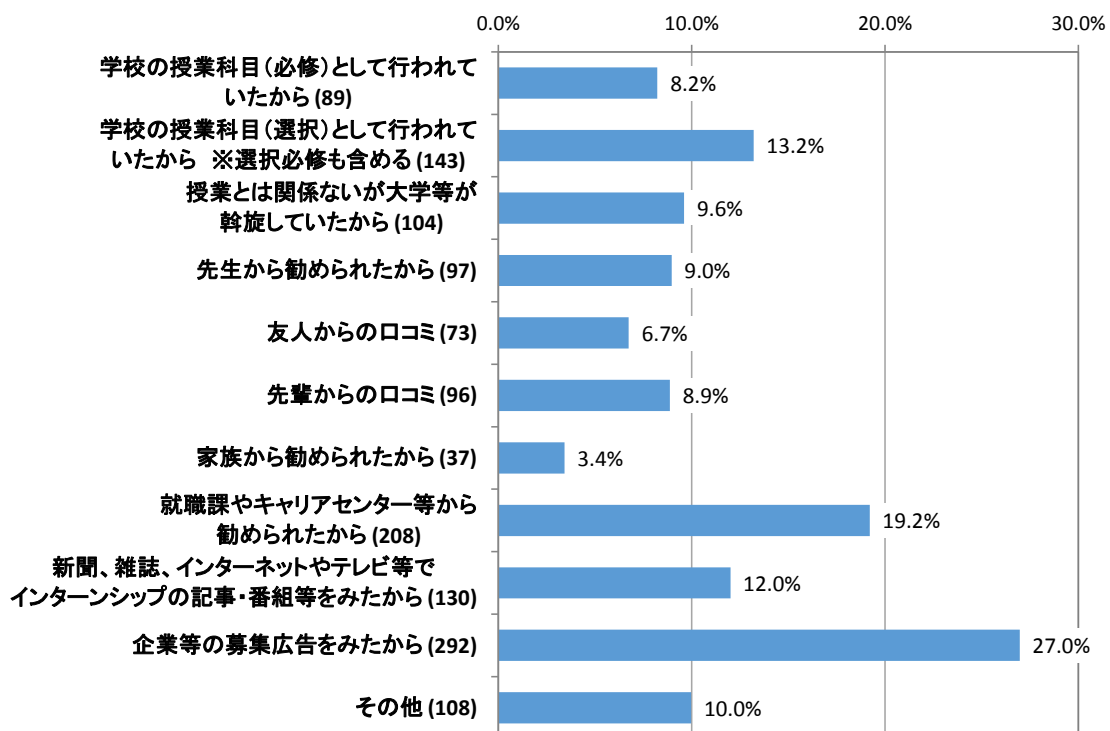
Q12・44:このインターンシップには、何を利用して申し込まれましたか。(ひとつだけ)

図表 2-9 インターンシップへの申し込み経路 (n=1083)



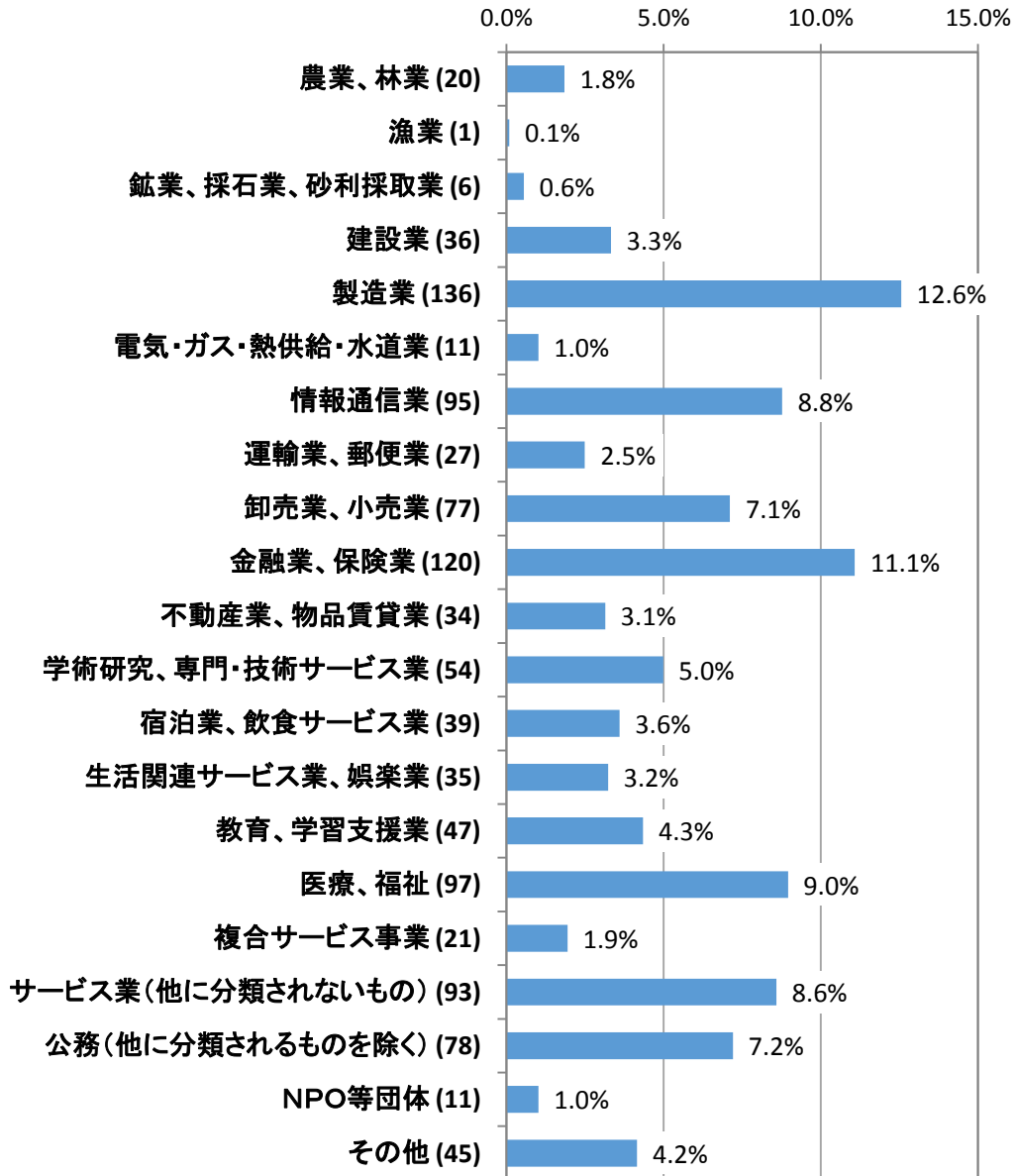
Q13・Q45:このインターンシップに参加したきっかけは何ですか。(いくつでも)

図表 2-10 参加のきっかけ (n=1083)



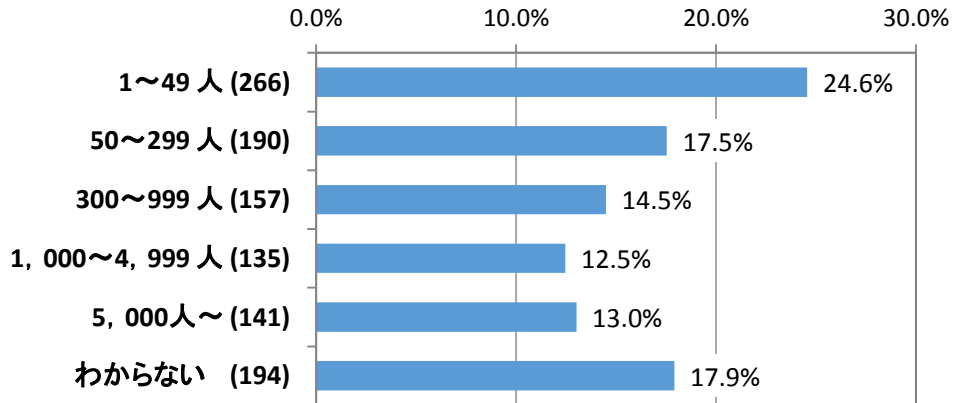
Q14・Q46:このインターンシップの主な業種についてお答えください。(ひとつだけ)

図表 2-11 インターンシップ先の業種 (n=1083)



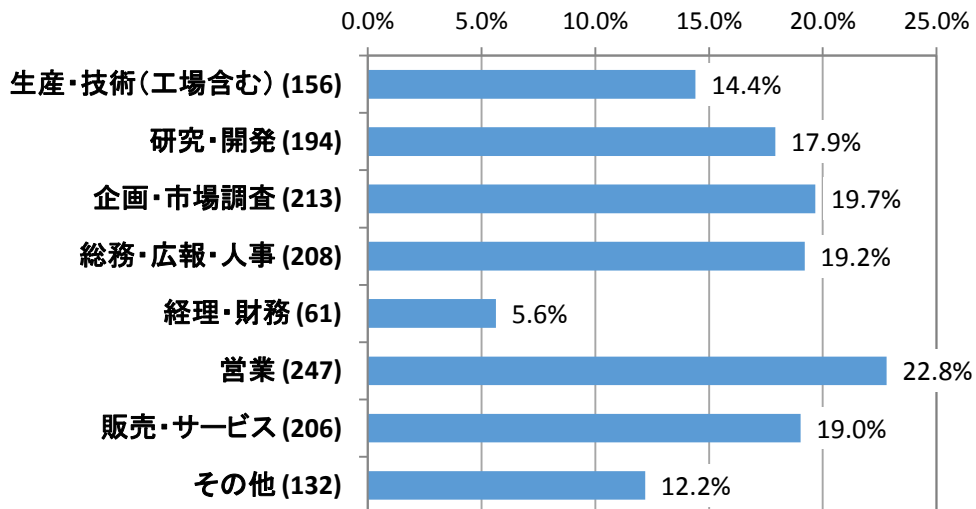
Q15-Q47:このインターンシップ先の従業員数についてお答えください。(ひとつだけ)

図表 2-1 2 インターンシップ先の従業員数 (n=1083)



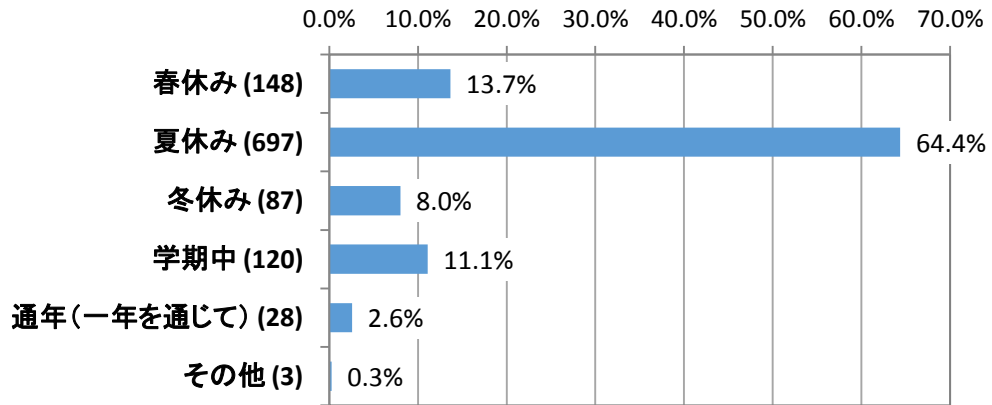
Q16-Q48:このインターンシップを行った部署をお答えください。(いくつでも)

図表 2-1 3 インターンシップ先の部署 (n=1083)



Q19-Q51:このインターンシップに参加した時期はいつでしたか。(ひとつだけ)

図表 2-1 4 インターンシップ参加時期 (n=1083)

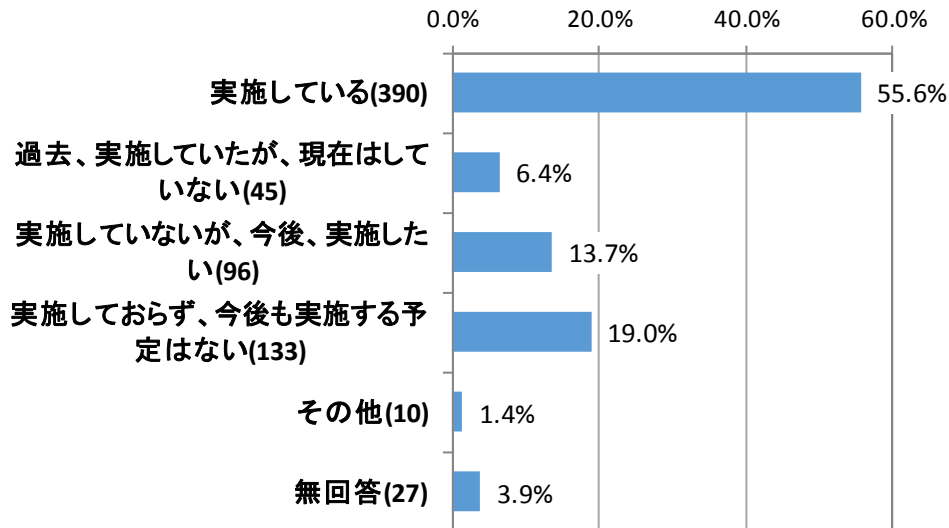


②企業の実施

- インターンシップを「実施している」企業は 55.6%である。従業員規模別にみると、従業員規模が大きい企業ほど実施率が高く、従業員数 1,000 名以上の企業は 69.2%が実施している。
- インターンシップの実施期間は「1日」が 44.8%、「2～4 営業日」が 8.0%と、5日未満が過半数である。従業員規模別にみると、5,000 名以上の企業で「5～9 営業日」が 36.7%と高い。
- インターンシッププログラムの受け入れ時期は、「夏休み（主に 8 月～9 月頃）」が 64.2%と最も高く、次に「春休み（主に 2 月～3 月頃）」の 30.1%となっている。
- インターンシップへの実施は、「特に社外からの依頼はなく、自社で独自に応募」が 56.7%と最も高く、「大学からの依頼」は 47.1%となっている。
- 過去 1 年間に受け入れた学生は、「理系」が 86.8%と「文系」よりも多く、学科では「工学・工業」学科が 77.9%と最も高い。また学年別にみると、「大学 3 年」が 89.1%と最も高く、次に「大学院修士 1 年」が 44.2%となっている。「短大 1 年」は 7.5%、「高専 4 年」は 11.7%である。
- インターンシップの実施目的として、「大いにあてはまる」への回答割合をみると、「仕事を通じて、学生に自社を含め、業界・仕事の理解を促す」が 82.5%と最も高く、次に「学生に就業体験の機会を提供することで、社会貢献する」の 46.9%となっている。

問1：貴社では過去1年間、インターンシップを実施していますか。該当する番号ひとつに○をつけてください。

図表 2-15 インターンシップ実施有無 (n=701)



図表 2-16 インターンシップ実施有無 <企業/従業員規模別>

	全体	実施している	過去、実施していたが、現在はしていない	実施していないが、今後、実施したい	実施しておらず、今後も実施する予定はない	その他	無回答
全体	701 100.0%	390 55.6%	45 6.4%	96 13.7%	133 19.0%	10 1.4%	27 3.9%
300名未満	206 100.0%	66 32.0%	21 10.2%	33 16.0%	81 39.3%	3 1.5%	2 1.0%
300名以上	223 100.0%	141 63.2%	11 4.9%	31 13.9%	33 14.8%	5 2.2%	2 0.9%
1000名未満	182 100.0%	126 69.2%	10 5.5%	25 13.7%	16 8.8%	2 1.1%	3 1.6%
1000名以上	62 100.0%	53 85.5%	1 1.6%	6 9.7%	1 1.6%	0 0.0%	1 1.6%
5000名未満	28 100.0%	4 14.3%	2 7.1%	1 3.6%	2 7.1%	0 0.0%	19 67.9%
5000名以上							
不明							

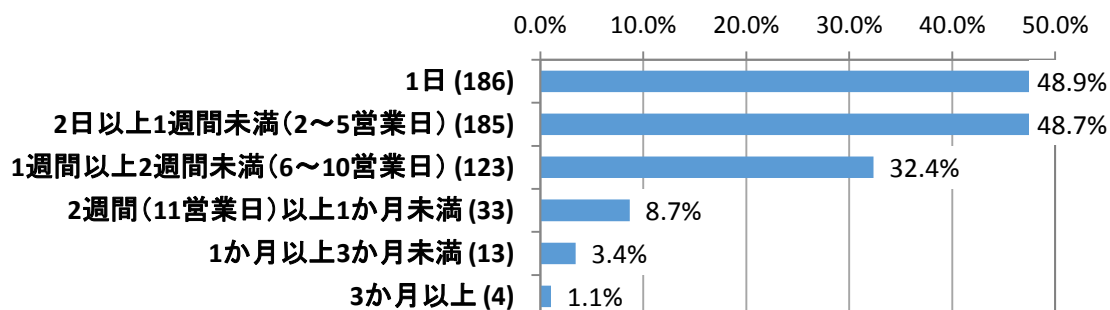
問1a(1):実施しているインターンシップのプログラムの個数

図表 2-17 インターンシッププログラムの個数

平均	2.86
最大	230
最小	1
回答件数	327

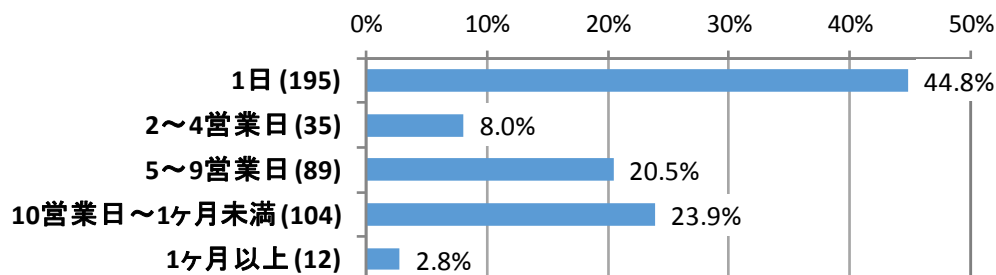
問1a(2):実施しているインターンシッププログラムの期間（該当する番号すべてに○）

図表 2-18 プログラムの期間 (n=380)



問2(1):学生一人あたり通算受け入れ日数（自由記述）

図表 2-19 プログラムの期間 (n=435)



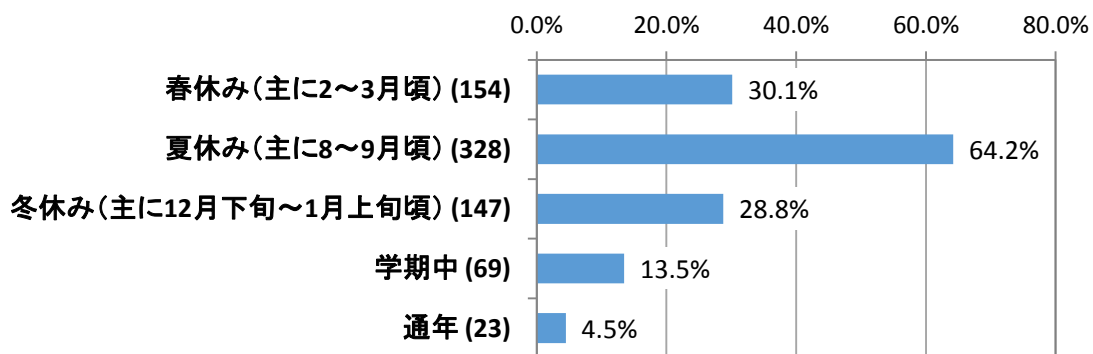
図表 2-20 プログラムの期間 <企業/従業員規模別>

	全体	1日	2~4営業日	5~9営業日	10営業日以上 1ヶ月未満	1ヶ月以上
全体	435 100.0%	195 44.8%	35 8.0%	89 20.5%	104 23.9%	12 2.8%
300名未満	68 100.0%	32 47.1%	0 0.0%	13 19.1%	22 32.4%	1 1.5%
300名以上1000名未満	154 100.0%	71 46.1%	19 12.3%	25 16.2%	35 22.7%	4 2.6%
1000名以上5000名未満	145 100.0%	68 46.9%	14 9.7%	27 18.6%	31 21.4%	5 3.4%
5000名以上	60 100.0%	20 33.3%	2 3.3%	22 36.7%	14 23.3%	2 3.3%
不明	8 100.0%	4 50.0%	0 0.0%	2 25.0%	2 25.0%	0 0.0%

問2:ご回答頂くインターンシッププログラムの概要について、以下の(1)~(2)の質問にお答えください。

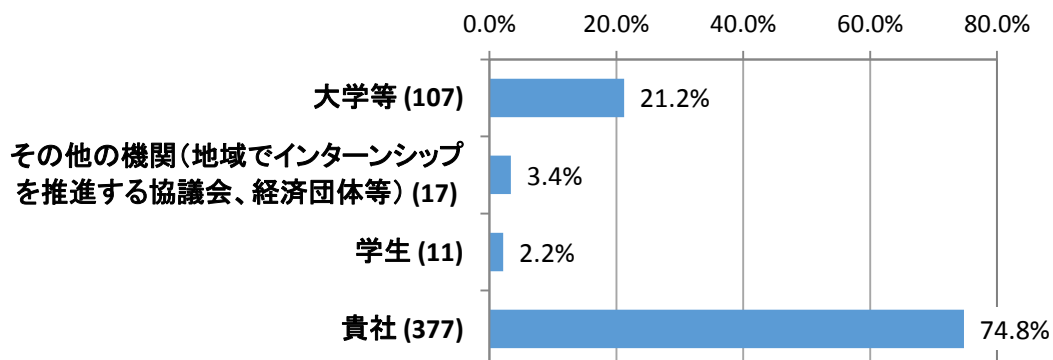
問2(1):インターンシッププログラムの受け入れ時期 (すべてに○)

図表 2-2 1 受け入れ時期 (n=511)



問2(2):インターンシッププログラムの企画主体 (主なひとつに○)

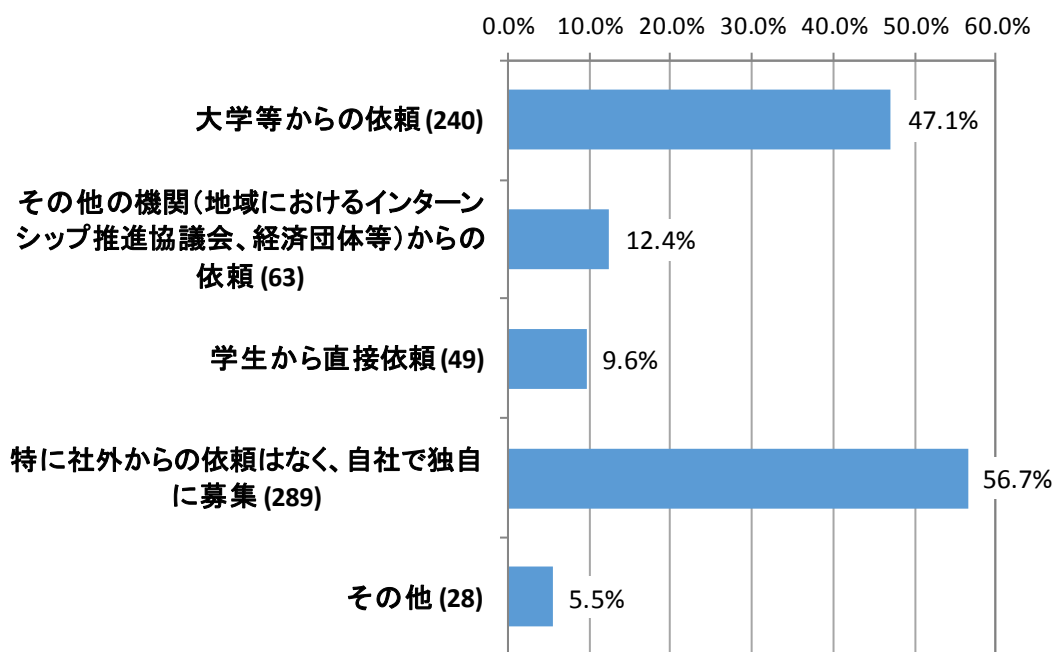
図表 2-2 2 企画主体 (n=504)



※本設問は「主なひとつに○」だが、複数に○をした回答者がいたため、合計 100.0%にならない

問3: 貴社でのインターンシップはどの機関を通じて実施されましたか。該当する番号すべてに○をつけてください。

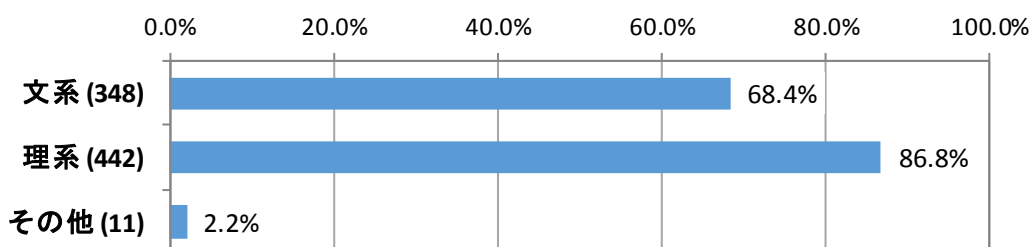
図表 2-23 募集経路 (n=510)



問4: 過去1年間に受け入れた学生について、以下の項目にお答えください。

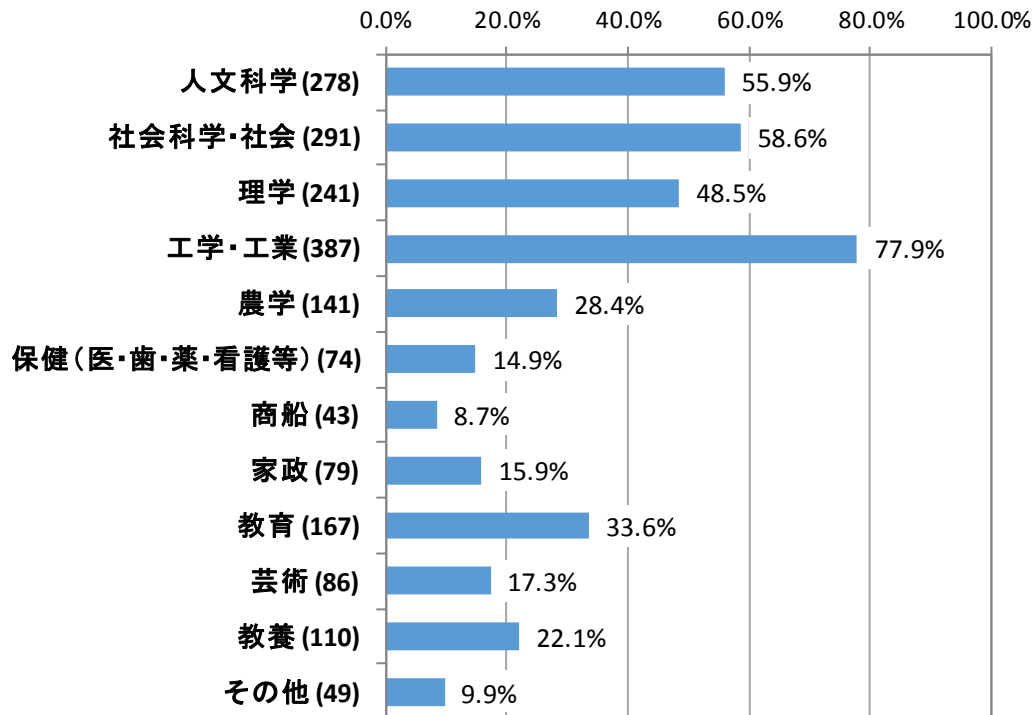
問4(1): 文系理系 (すべてに○)

図表 2-24 受け入れ学生 (n=509)



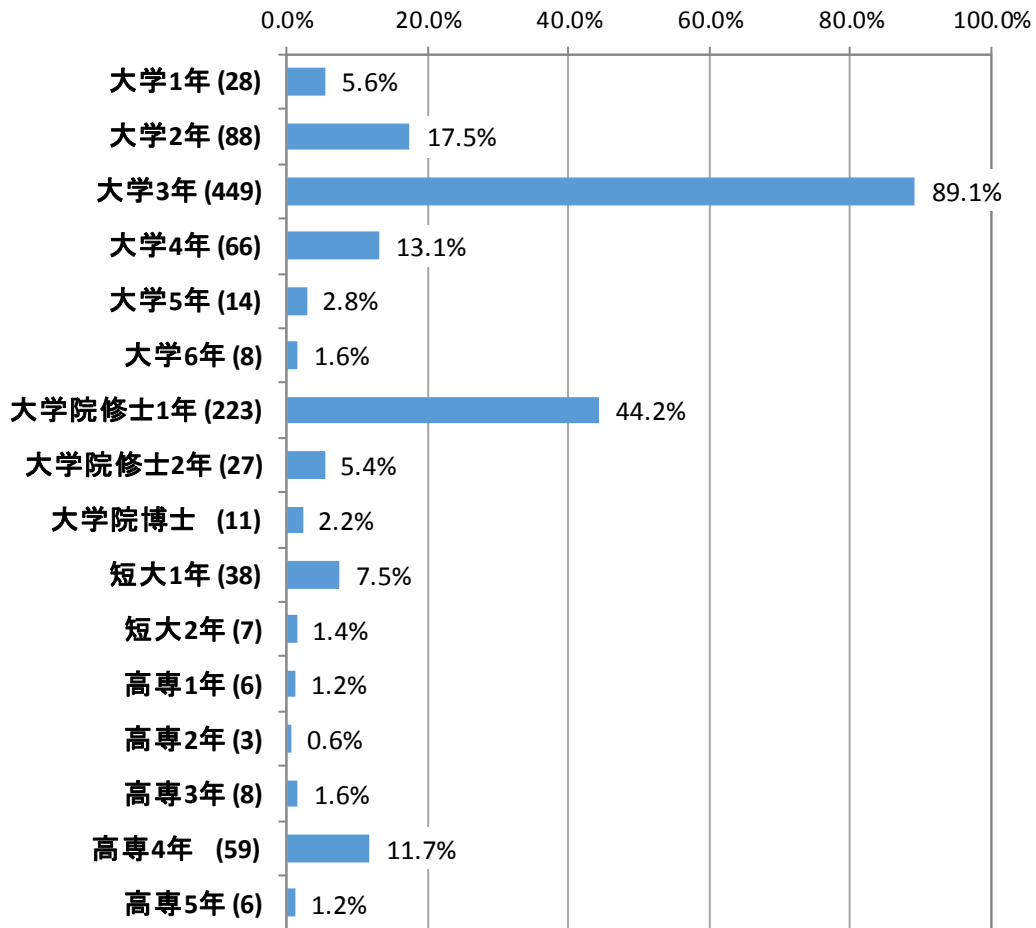
問4(2):所属学科(すべてに〇)

図表 2-25 受け入れ学生(所属学科)(n=497)



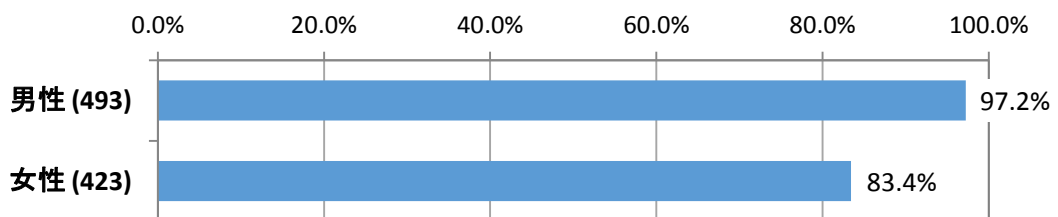
問4(3):学年 (すべてに○)

図表 2-26 過去1年間の受け入れ学生(学年) (n=504)



問4(4):性別 (すべてに○)

図表 2-27 過去1年間の受け入れ学生(性別) (n=507)



問5:過去1年間の応募・受け入れ人数についてお答えください(過去1年間に複数回実施している場合は全体の数字を記入してください)。

問5(1):応募人数

図表 2-28 過去1年間の応募人数

平均	213.52
最大	12843
最小	0
回答件数	458

問5(2):受け入れ人数

図表 2-29 過去1年間の受け入れ人数

平均	66.23
最大	3500
最小	0
回答件数	492

問6:インターンシップ実施の目的として、下記に示す(1)～(8)それぞれについて、選択肢の中から最も近いものを選んで○をつけてください。

図表 2-30 実施目的

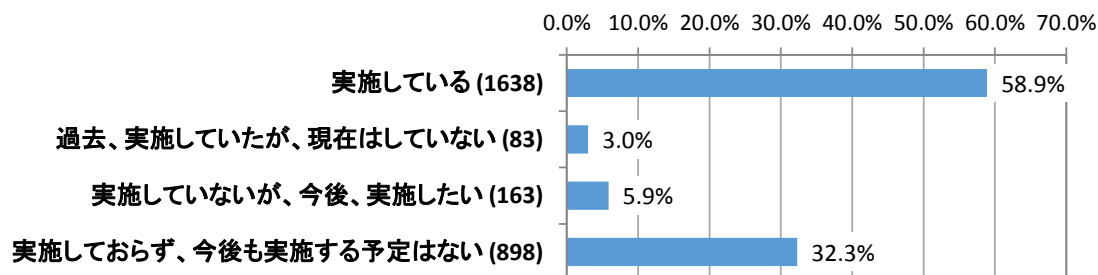
	大いにあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
(1)自社社員の育成・活性化を促す (n=506)	10.9%	41.7%	36.0%	11.5%
(2)仕事を通じて、学生に自社を含め、 業界・仕事の理解を促す(n=509)	82.5%	16.7%	0.8%	0.0%
(3)将来の顧客となり得る学生に対し て、自社に対する理解・イメージアップ を促進させる(n=511)	26.6%	35.2%	27.4%	10.8%
(4)学生に就業体験の機会を提供する ことで、社会貢献する(n=507)	46.9%	38.9%	12.2%	2.0%
(5)学生の視点からの提案や意見を自 社に取り入れる(n=507)	6.9%	37.9%	43.6%	11.6%
(6)採用を意識し、学生のスキルを見極 める(n=509)	22.4%	41.3%	28.7%	7.7%
(7)従来の採用とは異なるタイプの学生 を見出す(n=508)	8.7%	25.0%	49.8%	16.5%
(8)採用に直結したものとして実施 (n=508)	14.6%	29.3%	27.8%	28.3%

③大学の実施/送り出し

- インターンシップを「実施している」学部・組織は 58.9%である。学校種別にみると、「大学・キャリアセンター」で 84.9%、「短大・高専」で 66.4%と高い。
- インターンシップの実施期間は、「1週間以上2週間未満（6～10営業日）」が 57.6%「2日以上、1週間未満（2～5営業日）」が 57.1%と高い。
- インターンシップの対象範囲は、「貴学部・組織のみ」が 51.5%と最も高く、「全学」は 36.4%にとどまっている。
- インターンシップの実施目的は、「学生の仕事理解の促進」が 91.3%と最も高く、「学生の業種理解の促進（85.9%）」、「学生自身のキャリア観の明確化の機会提供（84.3%）」、「学生に企業の職場雰囲気等を経験させる（81.7%）」が 8割以上と仕事や職場理解を目的とする場合が多い。
- インターンシップ先の企業は、「100名未満」が 49.5%と小規模企業の割合が高い。
- 学年ごとの参加人数をみると、29.5%の大学等で低学年も参加している。
- インターンシップとして学生を送り出している企業等の開拓経路は、「教職員の人的ネットワークがある企業等」が 68.9%と最も高く、次に「採用実績のある企業」の 46.1%となっている。
- インターンシップを主に担当しているのは、「貴学部・組織等所属の教員（他業務との兼務）」が 62.2%、「貴学部・組織等所属の職員（他業務との兼務）」が 51.9%の順に高い。
- 学生を送り出している企業の選定は、「時期や期間が適切であること」の 74.2%が最も高く、次に「業種や業態が適切であること」が 73.7%と高い。

問3: 貴学部・組織等では、平成28年度に企業等へのインターンシップを実施していますか。なお、回答者が学部等の場合は、キャリアセンター等が主導して実施している全学共通のインターンシップは、含みません。(1つに○)

図表 2-3 1 H28 年度インターンシップ実施の有無 (n=2782)

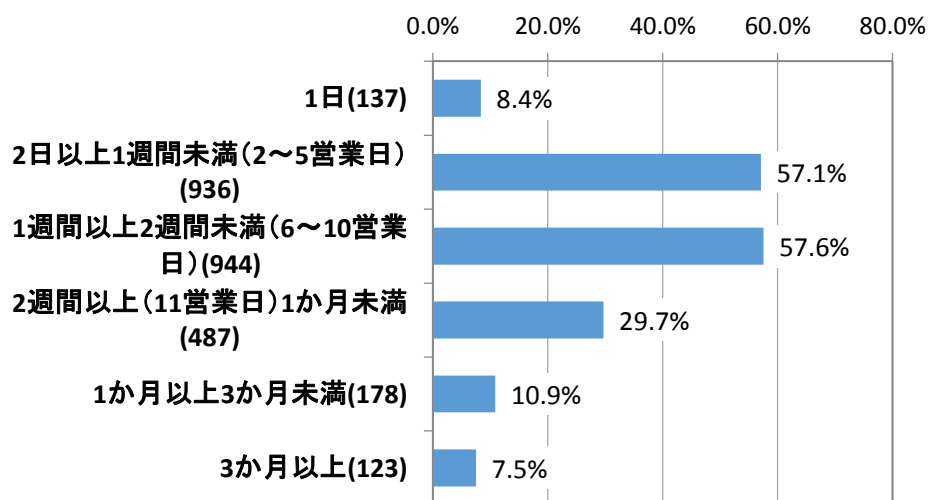


図表 2-3 2 H28 年度インターンシップ実施の有無<大学/学校種別>

	全体	実施している	過去、実施していたが、現在はしていない	実施していないが、今後、実施したい	実施しておらず、今後とも実施する予定はない
全体	2762 100.0%	1625 58.8%	82 3.0%	163 5.9%	892 32.3%
大学・学部	1164 100.0%	693 59.5%	32 2.7%	67 5.8%	372 32.0%
大学・研究科	739 100.0%	288 39.0%	39 5.3%	49 6.6%	363 49.1%
大学・キャリアセンター等	398 100.0%	338 84.9%	2 0.5%	18 4.5%	40 10.1%
短大・高専	461 100.0%	306 66.4%	9 2.0%	29 6.3%	117 25.4%

問4: 貴学部・組織等の平成 28 年度のインターンシップの実施期間(企業等へ送り出している期間)についてお答えください。(あてはまるもの全てに○)

図表 2-3 3 H28 年度インターンシップ実施期間 (n=1640)



問5:貴学部・組織等で実施している「1日」「2日以上1週間未満(2～5 営業日)」のインターンシップの授業またはプログラムの名称をお書きください。(自由記述)(抜粋)

■ 「1日」「2日～1週間未満 (2～5 営業日)」

- インターンシップ
- 校外実習
- 特別講義 (インターンシップ)
- ボランティア体験
- 学校推薦インターンシップ
- ジョブ・インターンシップ
- キャリア・アクティビティ
- 産業協働型インターンシップ
- 能力開発論
- 学外研修
- 就業体験実習
- 模擬裁判・エクスターンシップ
- キャリアデザインゼミナール
- ○○ (企業名) インターンシップ

■ 1週間以上 2週間未満 (6～10 営業日)」

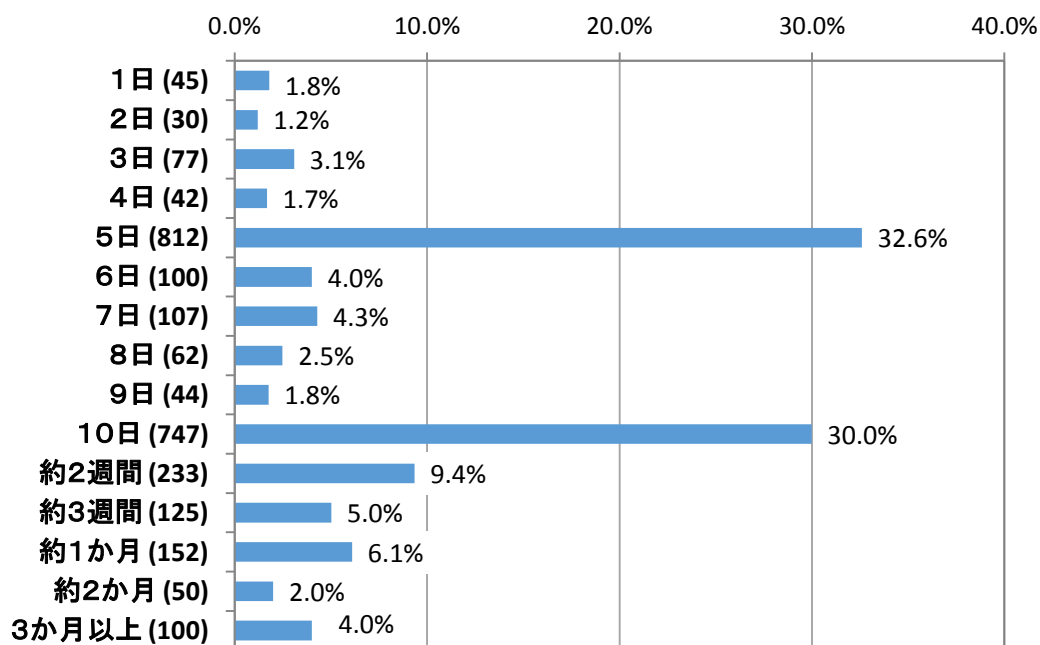
- 学校ボランティア
- 学外実習・就業体験実習
- ○○ (学部学科名) 実習
- 工場実習
- 文学部基幹科目
- リーガル・フィールドワーク
- 海外業界研究
- インターンシップ実習 (国際交流)
- ジェネラルインターンシッププログラム
- 建築実務研修
- 法律事務実務
- 課題解決型インターンシップ

■ 「2週間以上 (11 営業日) 1か月未満」「1か月以上 3か月未満」「3か月以上」

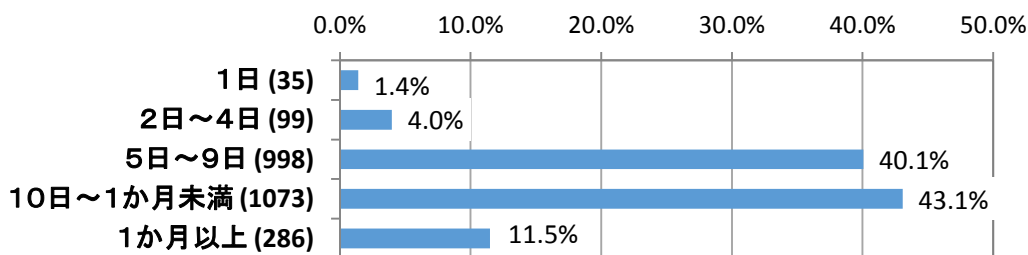
- 長期インターンシップ
- フィールド研究
- 地域協働型インターンシップ
- 施設実習
- 海外派遣キャリア演習・ホテル演習
- 現場研修・学外特別実習 (長期)
- ○○ (学校名) アカデミック・インターンシップ
- 企業課題探求型 長期・有償型インターンシップ
- 映画ビジネス
- ホスピタリティ実習
- 科学技術インターンシップ
- シニア・インターンシップ

問6-2:本インターンシップの実施期間(企業等へ送り出している期間)についてお答えください。(1つに○)

図表 2-3 4 本インターンシップの実施期間 (n=2491)

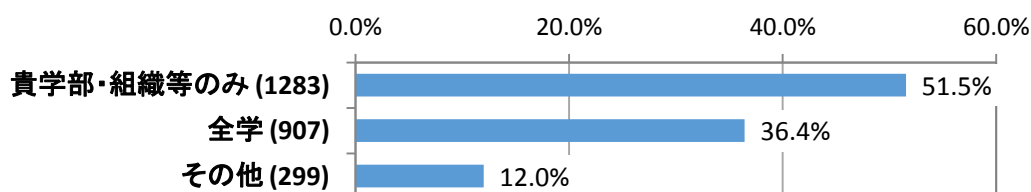


図表 2-3 5 本インターンシップの実施期間まとめ (n=2491)



問6-3:本インターンシップの対象範囲についてお答えください。(○は1つ)

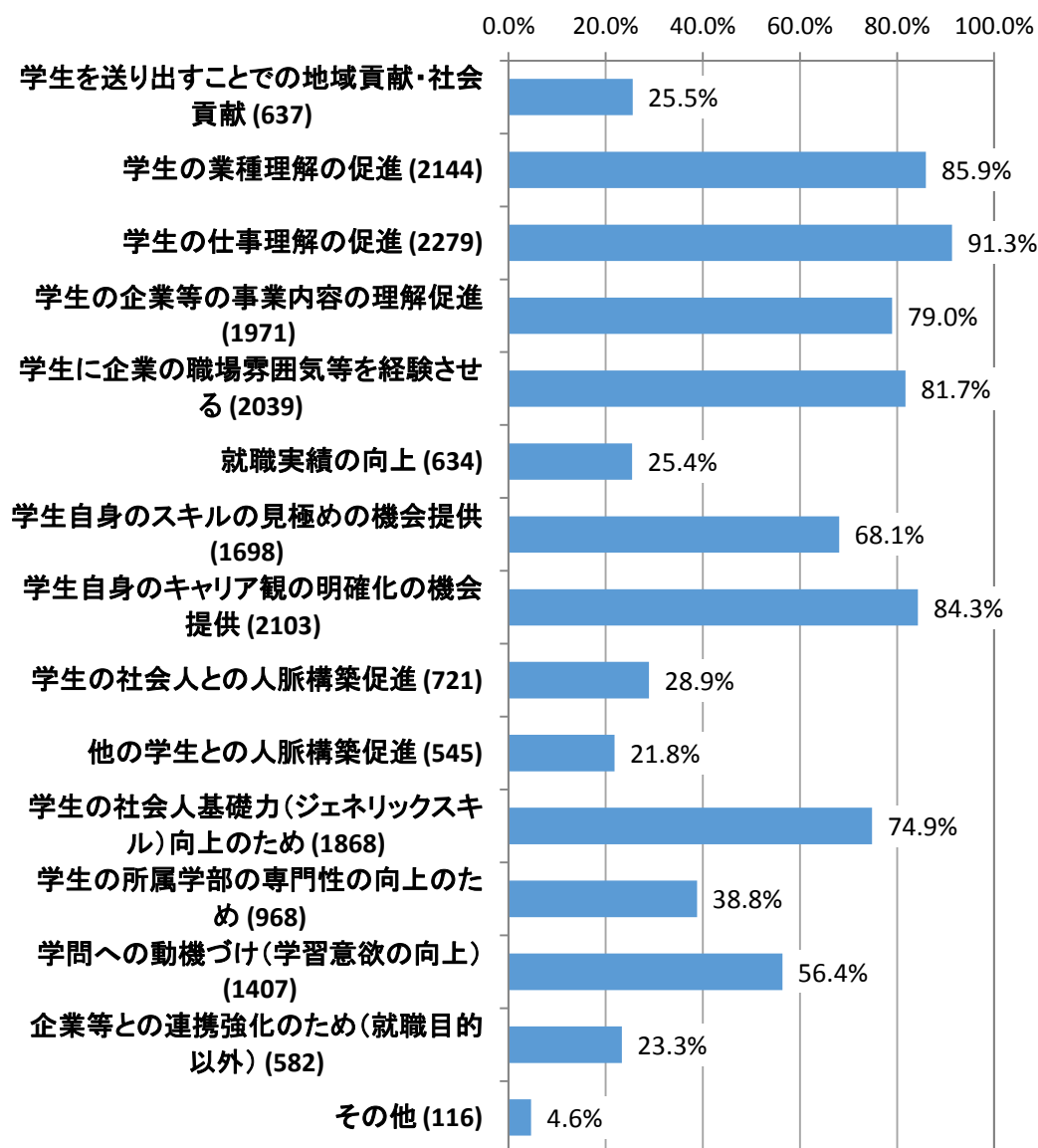
図表 2-3 6 対象範囲 (n=2489)



問7:本インターンシップ実施の目的としてあてはまるものをお答えください。

(あてはまるものをすべて選択してください。)

図表 2-37 実施の目的 (n=2495)



問8:平成28年度の本インターンシップ先の企業等についてお尋ねします。

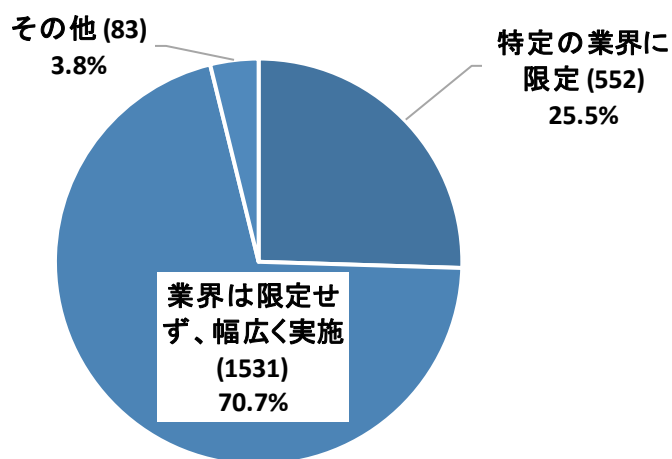
問8(1):送り出した企業数 (ご記入ください)

図表 2-38 企業数

平均	19.67
最大	786
最小	0
回答件数	2442

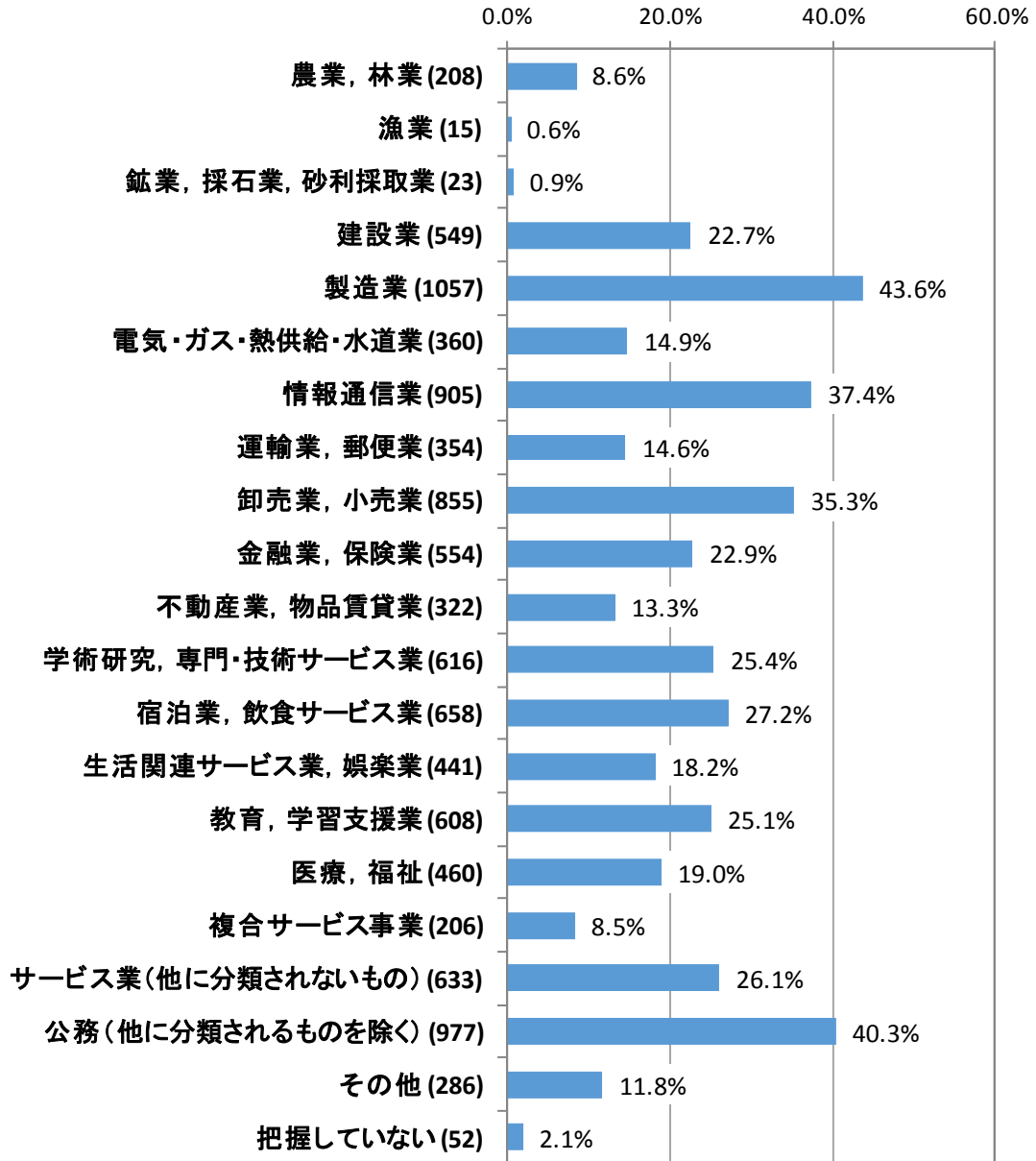
問8(2):送り出した企業の業種の範囲 (1つに〇)

図表 2-39 インターンシップ先企業の業種の範囲 (n=2166)



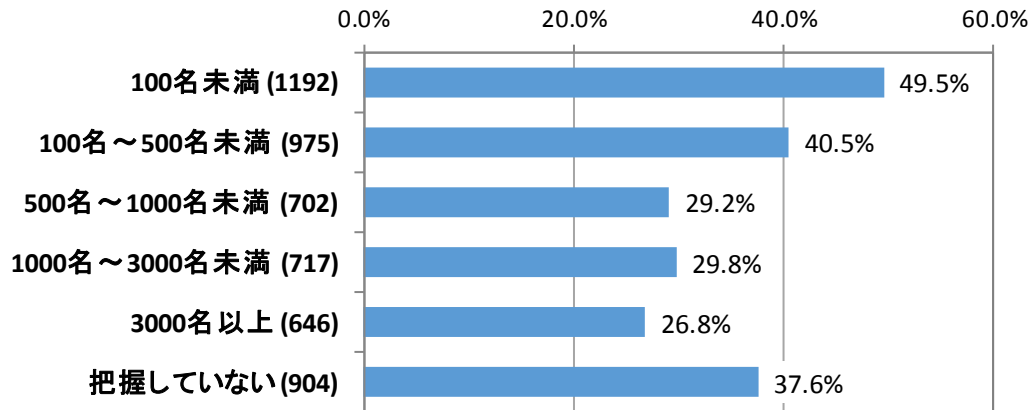
問8(3):企業の業種 (あてはまるものすべてを選択してください)

図表 2-40 企業の業種 (n=2422)



問8(4):従業員数 (あてはまるものすべてを選択してください)

図表 2-4 1 企業の従業員数 (n=2406)



問9:昨年度(平成27年度)の本インターンシップについて、学生の参加状況をお答えください。

問9(1):定員数(人)

図表 2-4 2 学生の定員数

(人)	
平均	148.99
最大	25307
最小	0
回答件数	1075

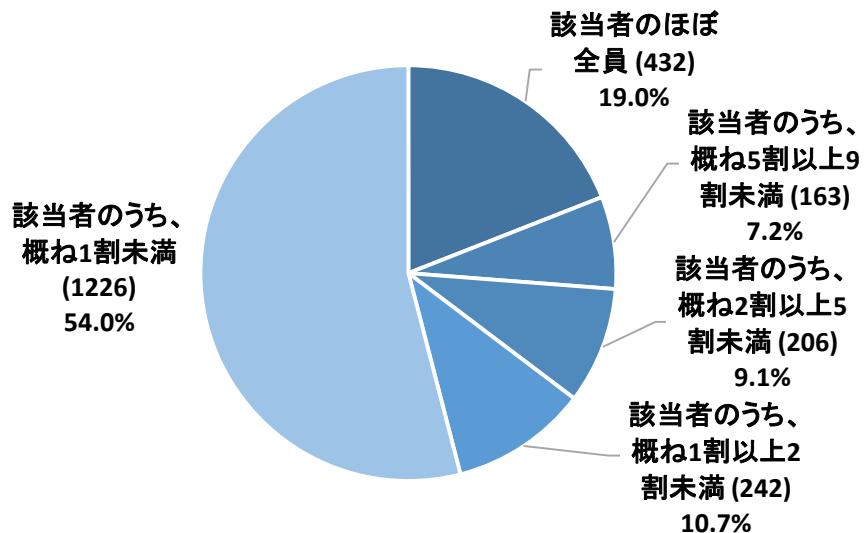
問9(2):参加人数(総数)(人)

図表 2-4 3 学生の参加人数(総数)

(人)	
平均	37.16
最大	1461
最小	0
回答件数	2495

問9(3):所属学生の参加割合(単一回答)

図表 2-4 4 所属学生の参加割合 (n=2269)

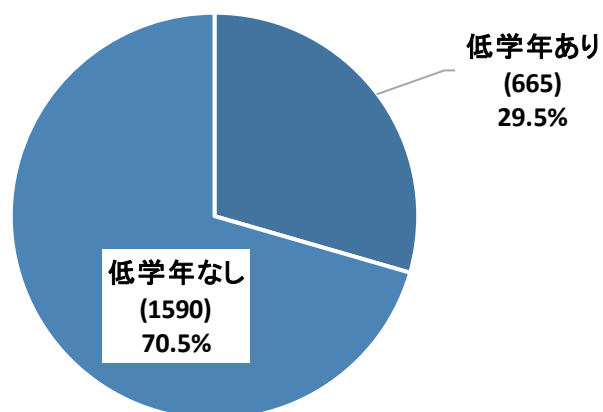


問9(4):学年 (人)

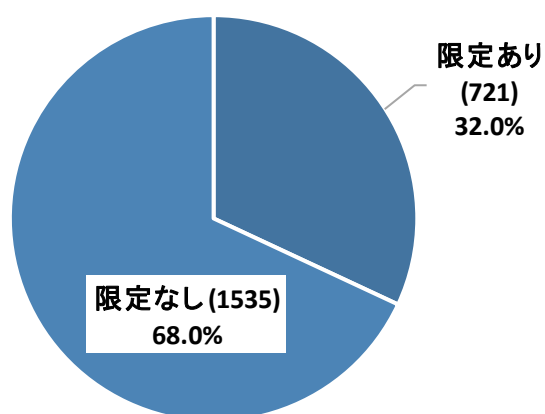
図表 2-4 5 学年毎の参加人数

	平均	最大	最小	回答件数
1 [学部/学科・本科] 1年生	9.05	688	0	1,414
2 [学部/学科・本科] 2年生	9.43	680	0	1,528
3 [学部/学科・本科] 3年生	29.82	1,407	0	1,851
4 [学部/学科・本科] 4年生	10.74	680	0	1,450
5 [学部/学科・本科] 5年生	0.84	245	0	1,104
6 [学部/学科・本科] 6年生	0.05	34	0	1,067
7 [修士/専攻科] 1年生	3.52	92	0	1,333
8 [修士/専攻科] 2年生	0.81	100	0	1,188
9 大学院博士(後期)	0.45	81	0	1,077

図表 2-4 6 低学年有無 (n=2255)



図表 2-4 7 就活年次限定 (n=2256)



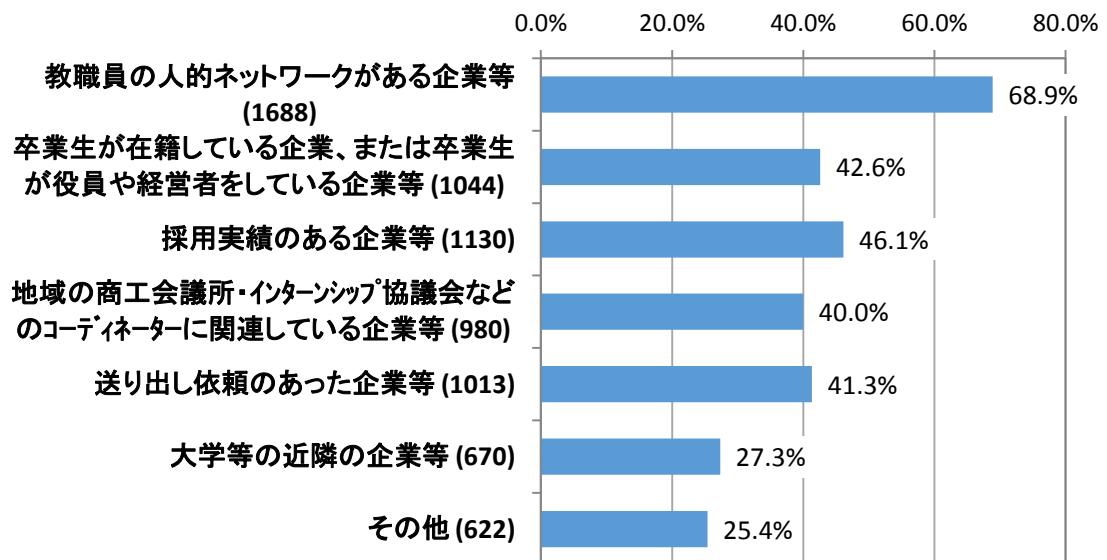
問9(5):分野

図表 2-4 8 参加学生数 (文理別)

	(人)			
	平均	最大	最小	回答件数
1 うち文系	32.33	1,963	0	1,336
2 うち理系	19.75	1,461	0	1,127
3 うちその他	1.32	137	0	898

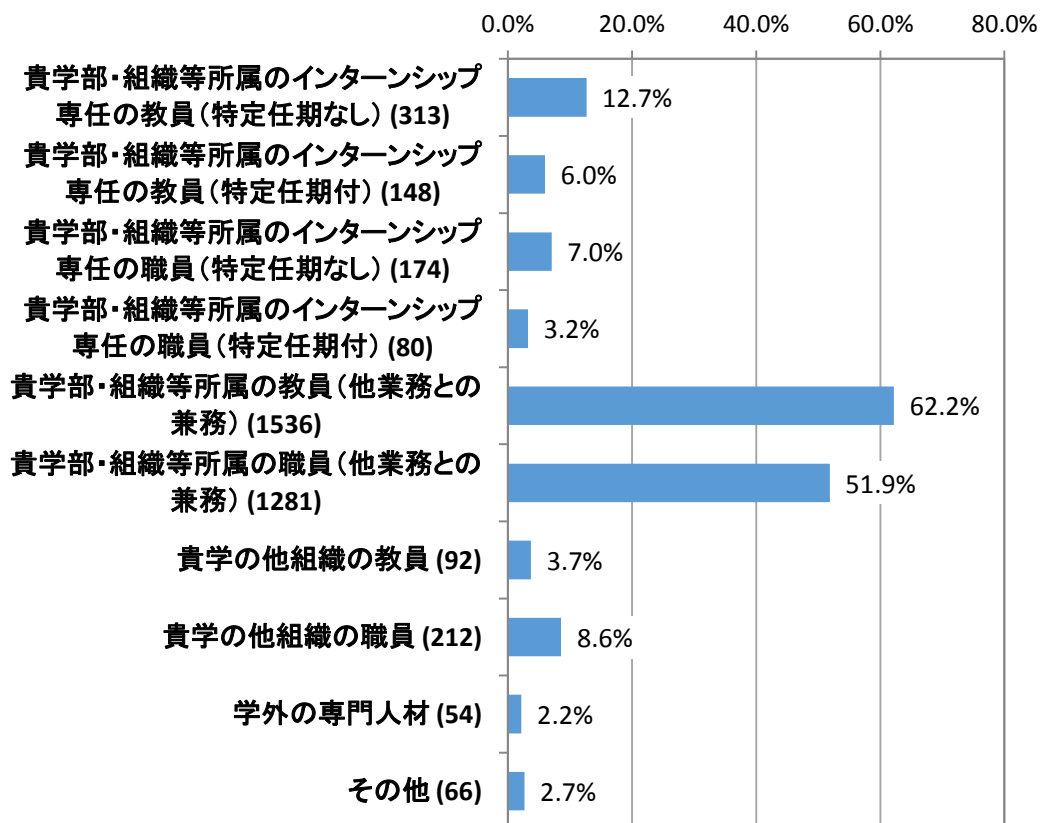
問13:本インターンシップとして学生を送り出している企業等は、どのように開拓しましたか。
 (あてはまるものすべてを選択してください)

図表 2-49 企業等の開拓経路 (n=2450)



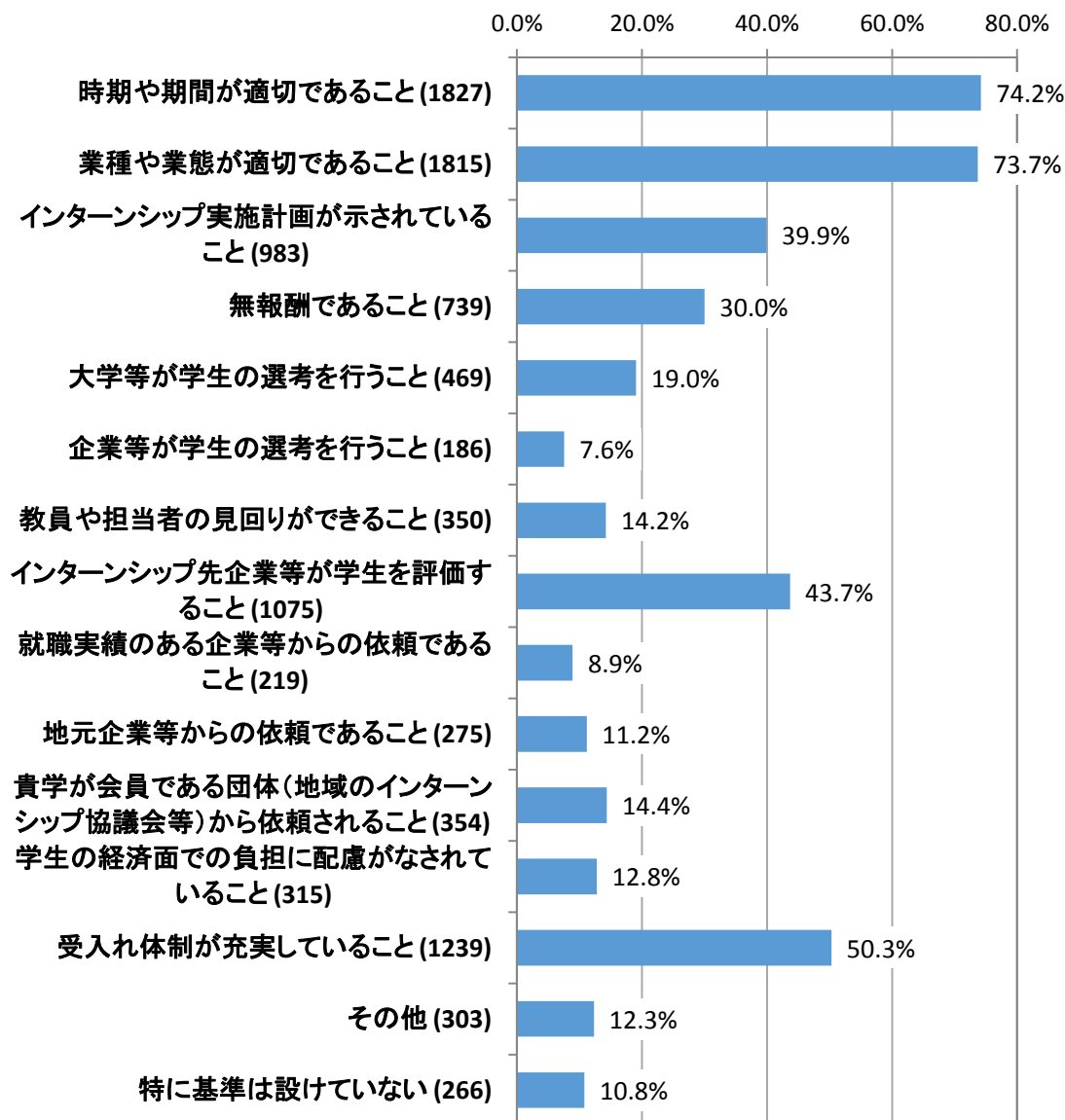
問14:本インターンシップを主に担当しているのは誰ですか。(あてはまるものすべてを選択してください)

図表 2-50 インターンシップの担当者 (n=2469)



問15:インターンシップとして学生を送り出している企業等は、どのように選んでいますか。
 (あてはまるものすべてを選択してください)

図表 2-5 1 送り先企業等の選択方法 (n=2462)



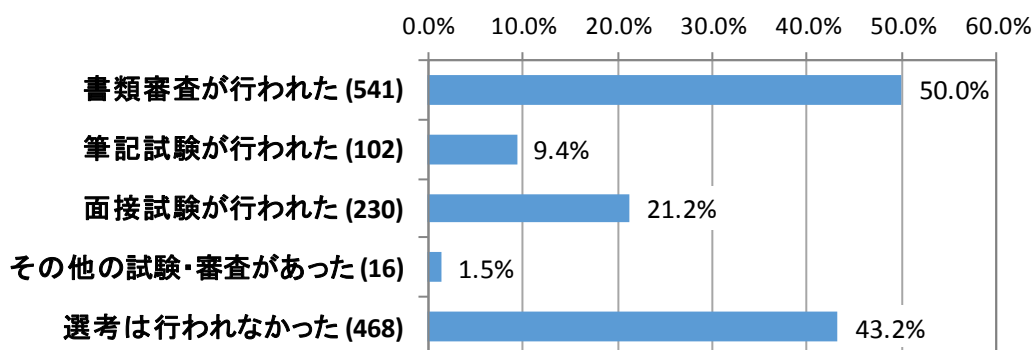
(2)選考の実態

①学生

- インターンシップに参加する際の選考として「書類審査が行われた」が50.0%と最も高い。次に「選考は行われなかった」が43.2%である。

Q17・Q49:あなたがこのインターンシップに参加する際に、選考が行われましたか。(いくつでも)

図表 2-5 2 学生の選考方法 (n=1083)

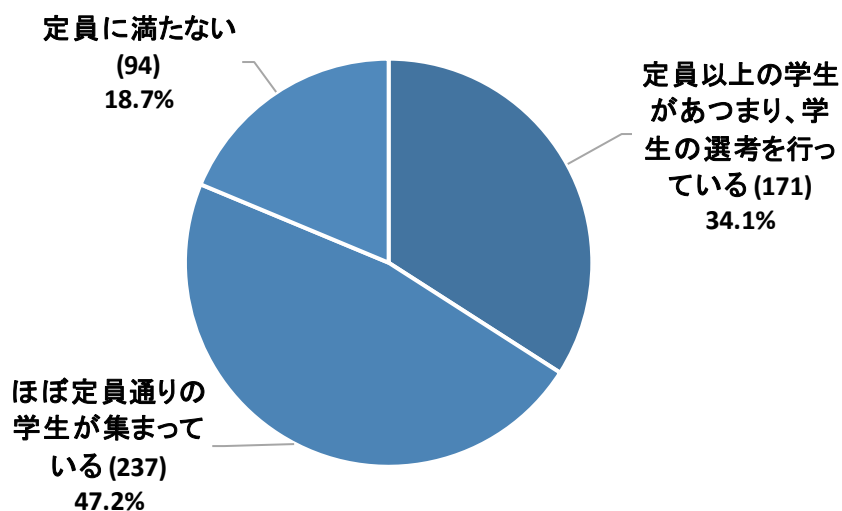


②企業

- インターンシップにおける学生の応募状況として「ほぼ定員通りの学生が集まっている」が47.2%と最も高く、「定員以上の学生が集まり、学生の選考を行っている」が34.1%である。
- 学生の選考を独自に「行っている」とする企業は54.4%だった。選考方法は、「書類審査」が83.1%と突出して高く、「面接試験」が62.5%である。
- 選考基準については、「やる気」が70.9%と最も高く、「明確な目的意識」が59.4%、「協調性、チームワーク」が54.4%となった。

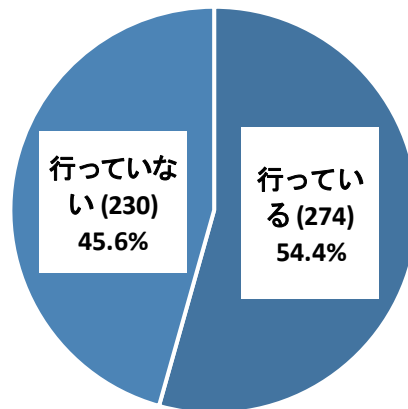
問10:インターンシップにおける学生の応募状況について、該当する番号ひとつに○をつけてください。

図表 2-53 学生の応募状況 (n=502)



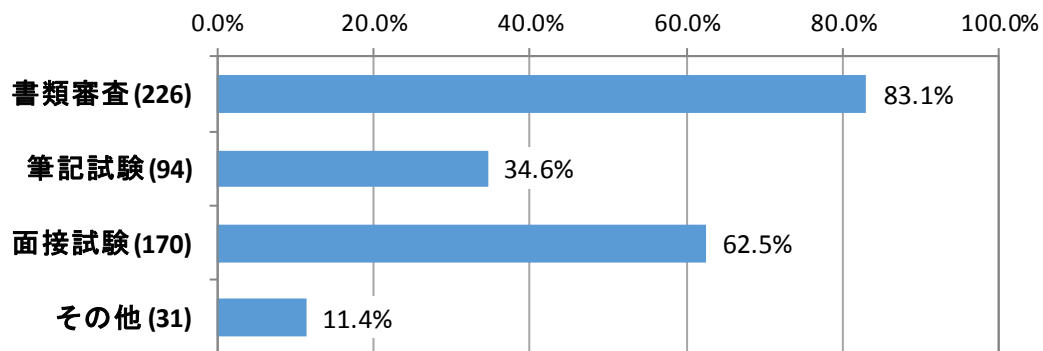
問14: 貴社において、学生の選考を独自に行っていますか。該当する番号ひとつに○をつけてください。

図表 2-5 4 学生の選考を独自に行っているか (n=504)



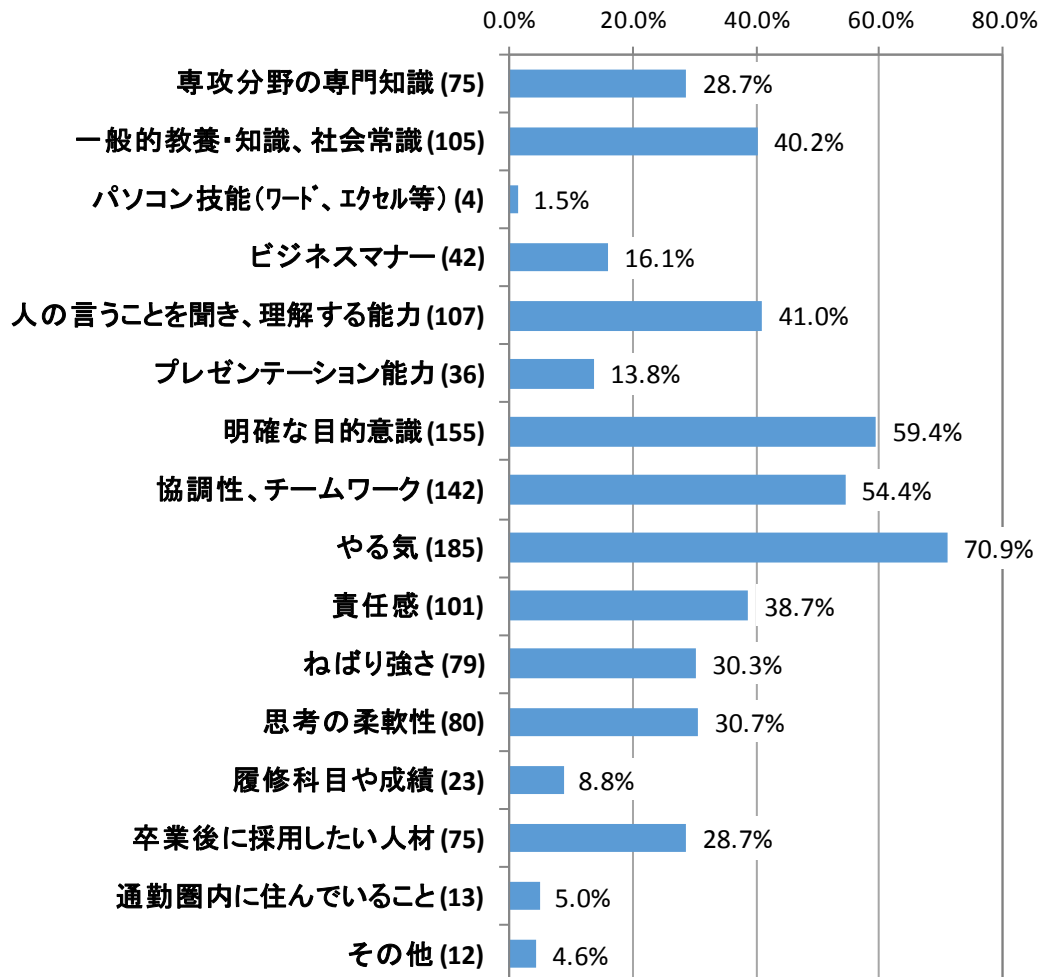
問14a: どのような方法で選考していますか。該当する番号すべてに○をつけてください。

図表 2-5 5 学生の選考方法 (n=272)



問15:どのような基準で選考していますか。該当する番号すべてに○をつけてください。

図表 2-56 選考基準 (n=261)

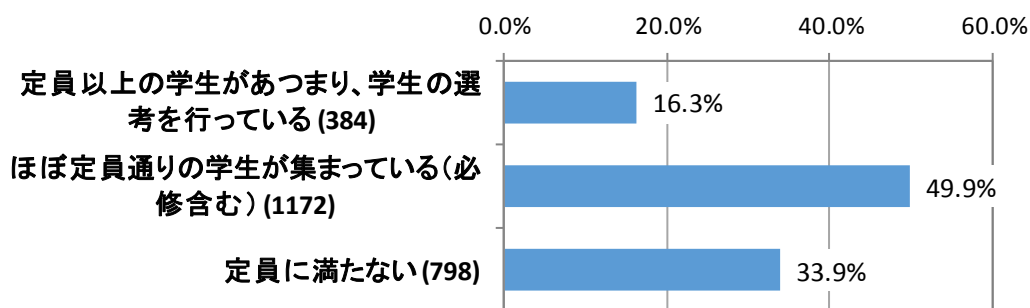


③大学

- インターンシップへの学生の参加状況としては、「ほぼ定員通りの学生が集まっている（必須含む）」が 49.9%と最も高く、参加希望学生に対する選考を「行っている」大学は 44.3%である。
- 選考方法は、「書類選考」が 64.3%と最も高く、次に「面接」が 58.9%となっている。
- 参加希望の学生に選考を行うことで学生への教育効果が高まっているかについては、「やや高まっている」が 46.8%、「大いに高まっている」が 27.9%と7割以上が教育効果の高まりを感じている。

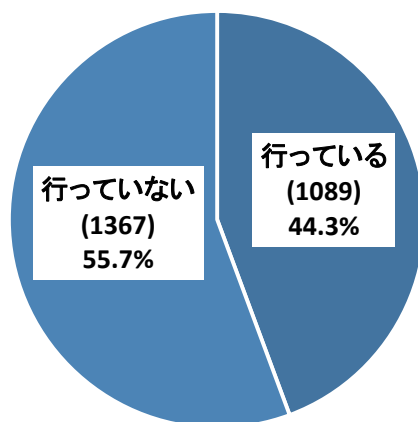
問11-1:学生の参加状況についてお答えください。(1つだけ選択してください)

図表 2-5 7 学生の参加状況 (n=2351)



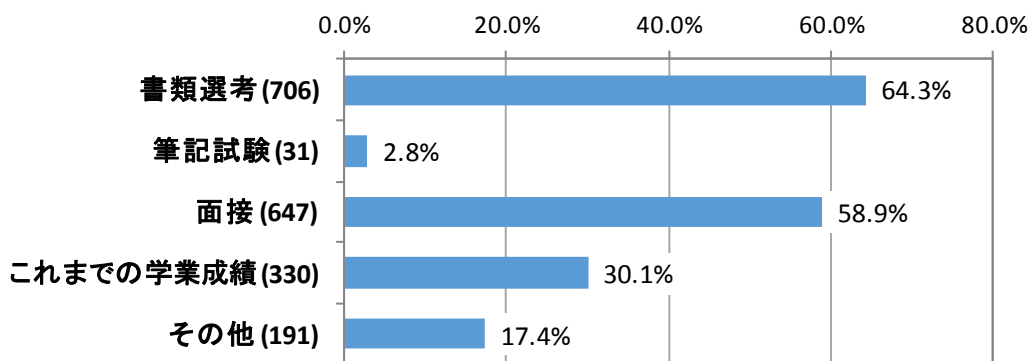
問16-1:本インターンシップ参加希望の学生に対して、選考を行っていますか。(1つに○)

図表 2-5 8 学生の選考の有無 (n=2456)



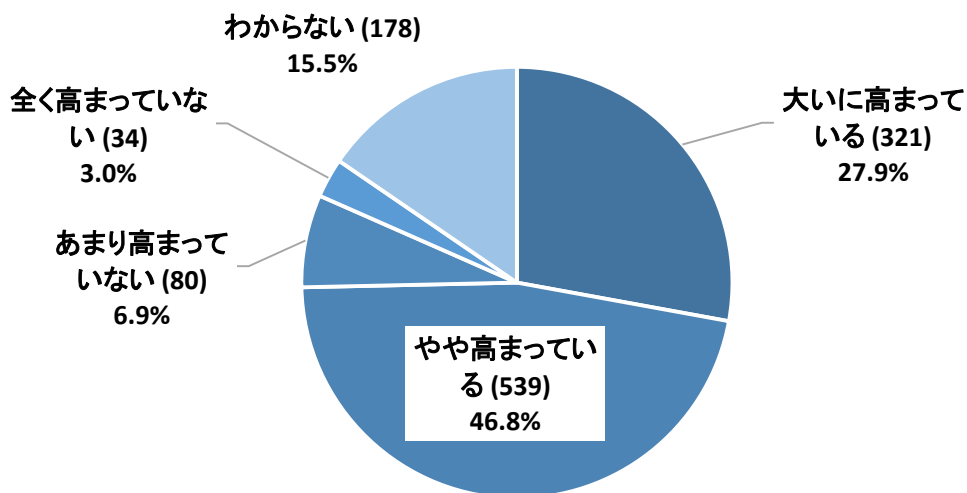
問16-2:インターンシップ参加希望の学生の選考方法をお答えください。(あてはまるものすべてを選択してください)

図表 2-59 学生の選考方法 (n=1098)



問16-3:インターンシップ参加希望の学生に選考を行うことで、学生への教育効果が高まっていると思いますか。(1つに○)

図表 2-60 学生への教育効果 (n=1152)



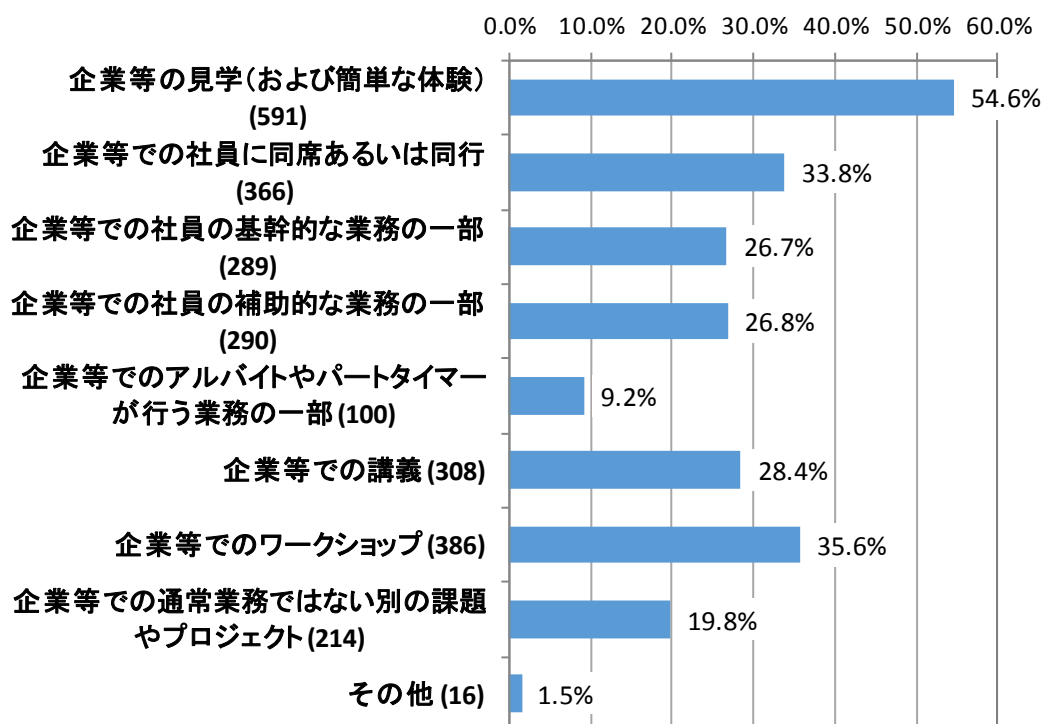
(3) インターンシップの具体的内容

① 学生

- 学生が参加したインターンシップの内容は「企業等の見学（および簡単な体験）」が54.6%と最も高く、次に「企業等でのワークショップ」の35.6%となっている。
- インターンシップの実習場所は「企業等の会議室」が58.4%で最も高い。
- インターンシップの内容で「企業等の講義」を選択した人の、講義の話者は「人事担当者」が81.2%と最も高い。
- インターンシップの内容で「企業等の講義」を選択した人の、講義の内容は「業界全般の説明」が76.3%と最も高い。次に「個別企業等の説明」が74.0%、「当日のプログラムのオリエンテーション」が71.8%である。
- インターンシップの内容で「別課題・プロジェクト」を選択した人の、具体的な内容は「参加企業等やその業界への新商品・サービス提案」が53.7%で最も高い。

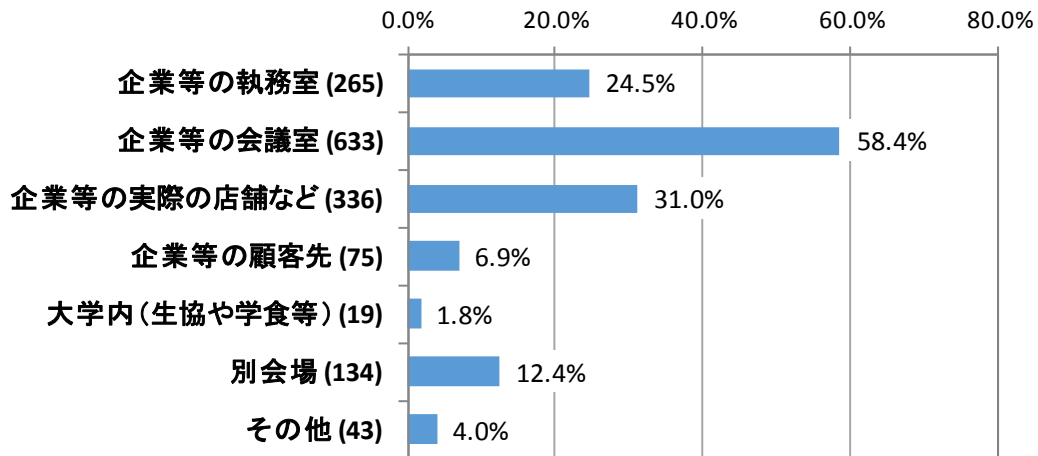
Q20・Q52:このインターンシップの内容はどのようなものでしたか。(いくつでも)

図表 2-6 1 インターンシップの内容 (n=1083)



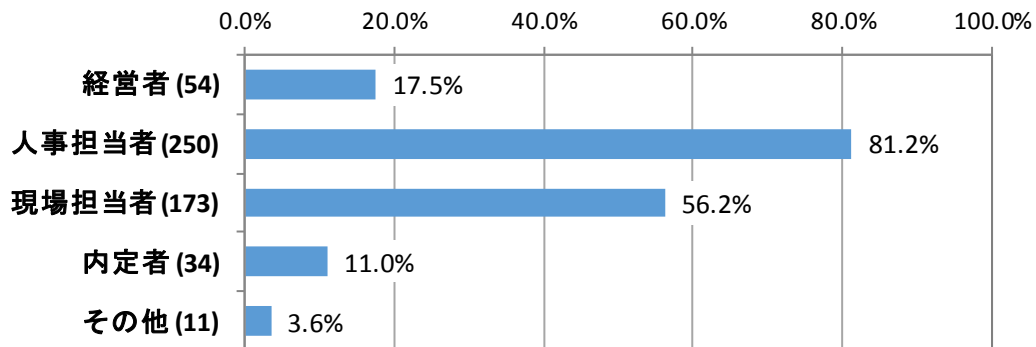
Q21・Q53:このインターンシップの実習場所はどこでしたか。(いくつでも)

図表 2-6 2 実習場所 (n=1083)



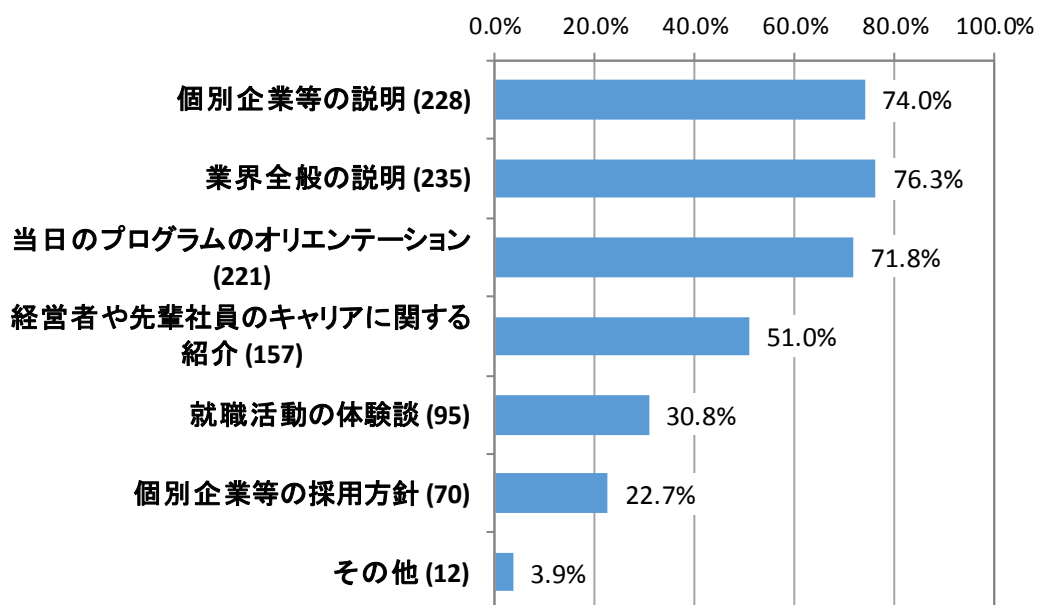
Q22・Q54:インターンシップ内容で「企業等での講義」をお選びの方にお伺いします。講義の話者についてあてはまるものをお選びください。(いくつでも)

図表 2-6 3 講義の話者 (n=308)



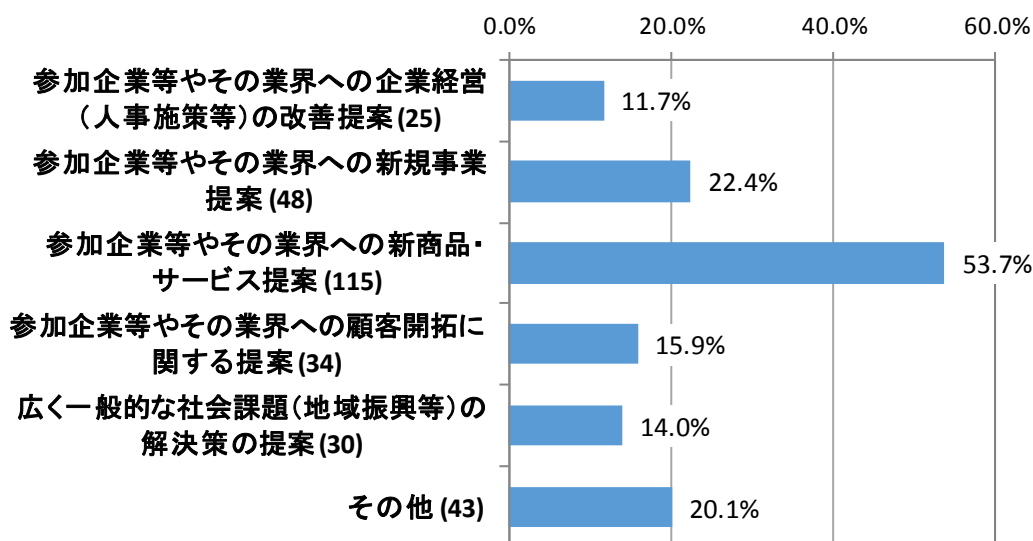
Q23-Q55:インターンシップ内容で「企業等での講義」をお選びの方にお伺いします。講義の内容についてあてはまるものをお選びください。(いくつでも)

図表 2-6 4 講義の内容 (n=308)



Q24-Q56:インターンシップ内容で「企業等での通常業務ではない別の課題やプロジェクト」をお選びの方にお伺いします。「通常業務ではない別の課題やプロジェクト」とは、具体的にどのようなものでしたか。(いくつでも)

図表 2-6 5 「別課題・プロジェクト」の内容 (n=214)



Q25-Q57:前問の回答について具体的内容を御記入ください。(自由記述)(抜粋)

■Q25 「1 日以上 2 週間未満 (1~10 営業日) 」

- 参加企業の顧客企業へともに営業
- 新規ブランド立ち上げ、稼働率を上げる方法、新店舗出店計画
- 自動車の設計のグループワーク
- IT×〇〇 (企業名) で新規事業を考える
- どうしたら教育業界で生き残ることができるか、宣伝方法を考える
- アプリの企画開発
- 書店の店頭でのポップの制作体験や、既存のデザインの地図をトレースしさらにわかりやすくする体験
- ボードゲームを使って実際にその会社の経営を体感する
- 町おこしを企画したイベントの提案
- 農作物の地産地消を広めるための企画をチームで考えて、発表した。5人1チームで、発表は模造紙を使った
- 近年の若者の車離れを原因の究明と、それを解決するイベントの提案が課題だったので、街中でアンケートを取り、車に対する国民の意見を取り入れつつ、車に興味を持ってもらえるようなイベントに、アンケート時に招待すると答えを導いた
- その企業の課題を指摘し、改善させるにはどうしたらいいかをグループで話し合い、結論を最後に発表しました
- 簡単な橋の設計計算
- ネット通販の会員数を増やすにはどうすればよいか
- 組み込みシステムで使われている機械がプログラミングで動くという説明とバクを探した

■Q57 「2 週間 (11 営業日) 以上」

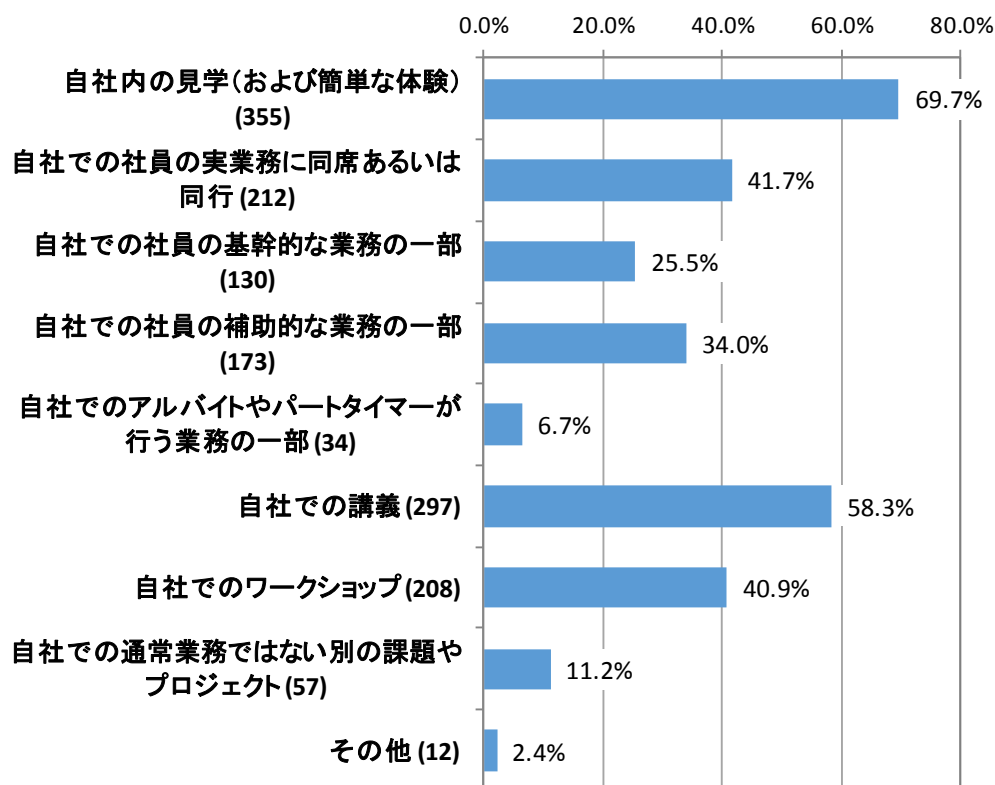
- セミナーの広報、支援大学とのコンタクト
- 地域の農家の方との関係づくりのために行われる朝市の、企画運営や広報を行った
- オフィスワーカー達の働き方を変えるようなソフトウェアアプリの企画・開発・営業
- 参加企業が制作している製品の検査する時の方法の考案
- 金融商品の開発
- 地球温暖化問題への対策を提案する

②企業

- 企業が実施したインターンシップの内容は「自社内の見学（および簡単な体験）」が69.7%と最も高く、次に「自社での講義」の58.3%となっている。一方、「自社での社員の基幹的な業務の一部」は25.5%にとどまっている。
- インターンシップの実習場所は「自社の会議室」が74.6%と最も高い。
- インターンシップの内容で「自社での講義」を選択した人の、講義の話者は「人事担当者」が91.2%と最も高い。
- インターンシップの内容で「自社での講義」を選択した人の、講義の内容は「自社の説明」が89.6%と最も高く、次に「自業界全般の説明」が85.6%、「当日のプログラムのオリエンテーション」が76.7%である。
- インターンシップの内容で「別課題・プロジェクト」を選択した人の、具体的な内容は「自社/自業界等への新商品・サービス提案」が54.2%で最も高い。

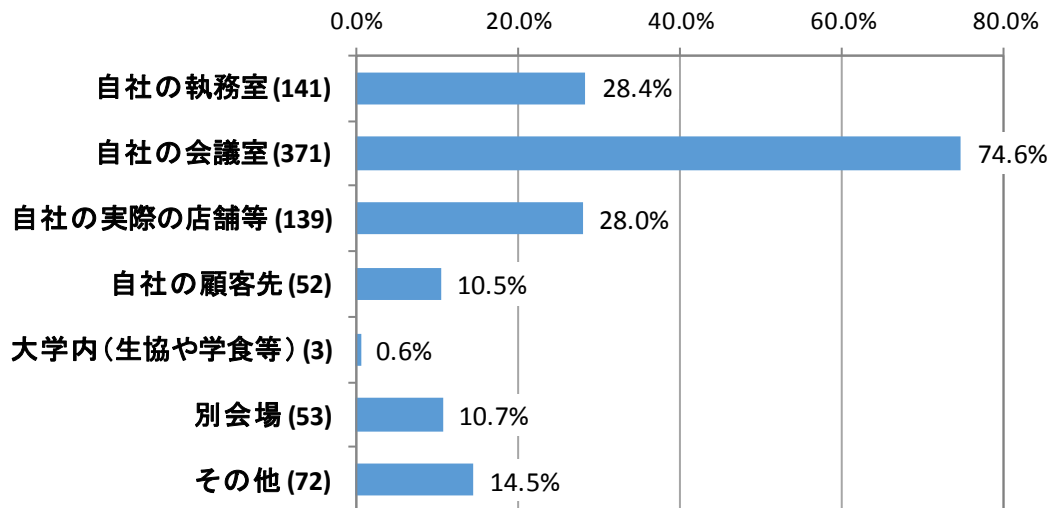
問12: 貴社で実施しているインターンシップの内容について、該当する番号すべてに○をつけてください。

図表 2-66 インターンシップの内容 (n=509)



問13: 貴社で実施しているインターンシップの実施場所について、該当する番号すべてに○をつけてください。

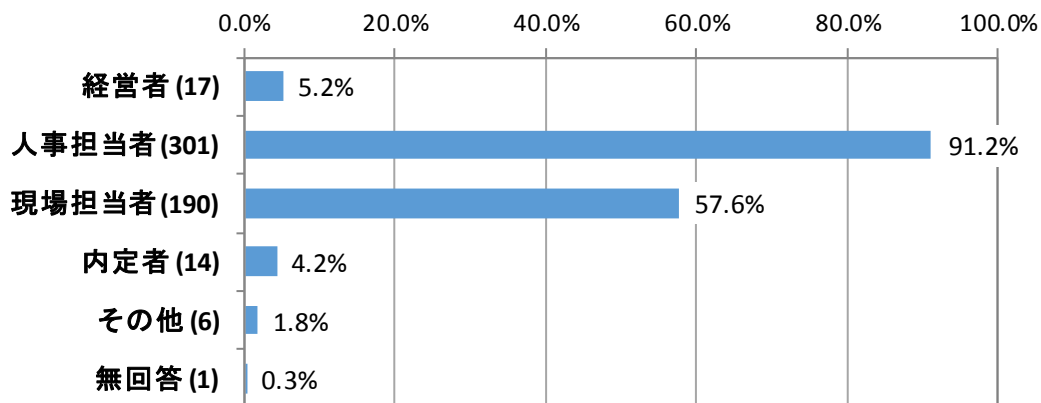
図表 2-67 実施場所 (n=497)



問13a: [問12]で「6. 自社での講義」に○をつけた方は、以下(1)と(2)それぞれの質問について、該当する番号すべてに○をつけてください。

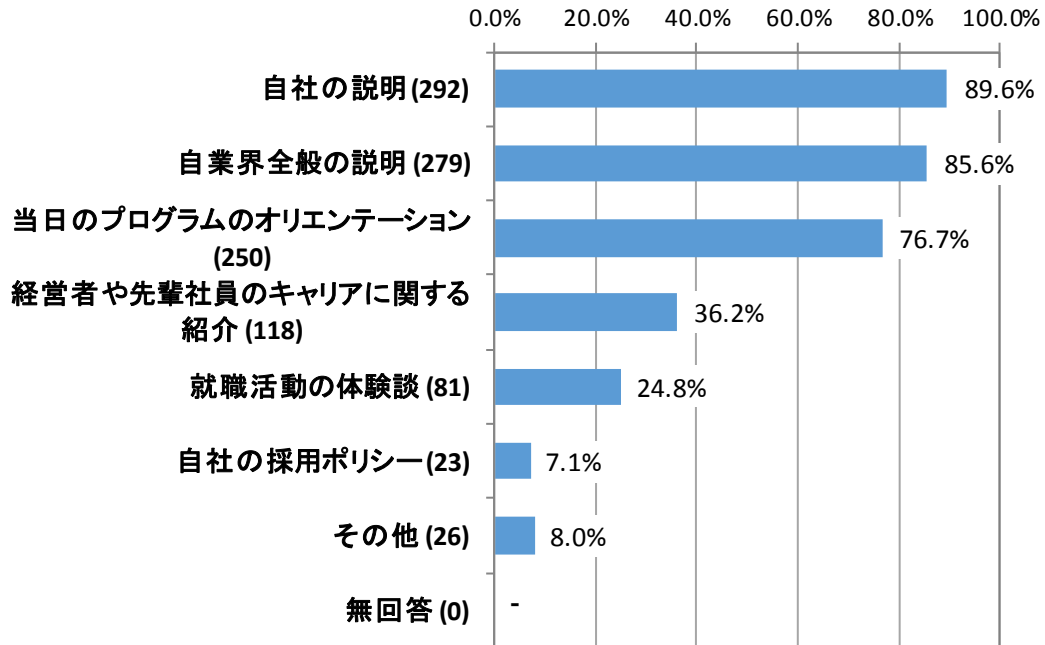
問13a(1): 講義の話者について

図表 2-68 講義の話者 (n=330)



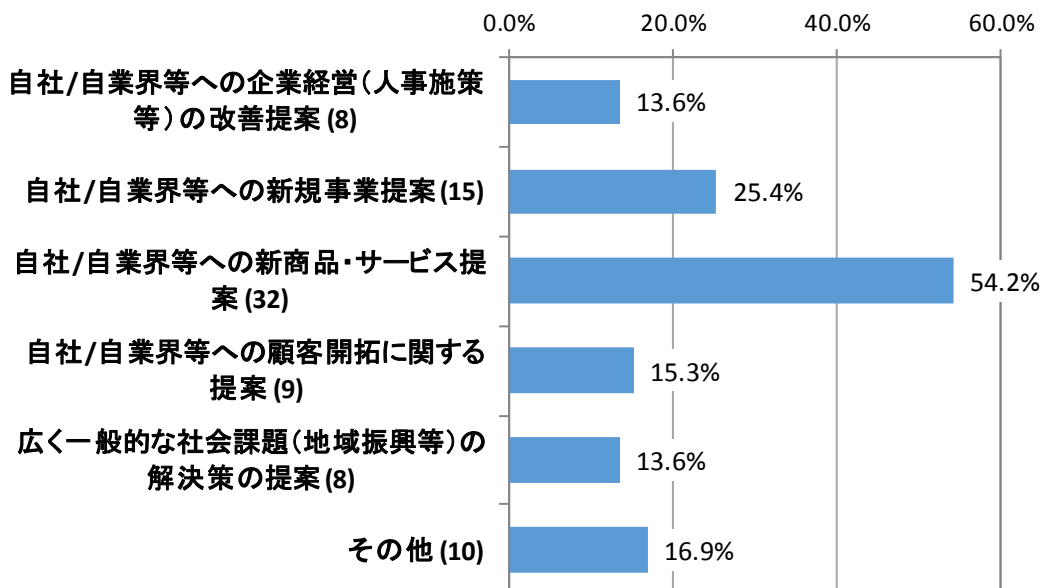
問13a(2):講義の内容について

図表 2-69 講義の内容 (n=326)



問13b:[問12]で「8. 自社での通常業務ではない別の課題やプロジェクト」に○をつけた方は、その内容について、該当する番号すべてに○をつけてください。

図表 2-70 「別課題・プロジェクト」の内容 (n=59)



問13c:【問13b】の回答について具体的内容をご記入ください。(自由記述)(抜粋)

■ 「1日」

- 顧客向け情報提供セミナーの立案
- スマートデバイスを用いた企画提案ワーク
- 個人向け商品企画、取引先支援
- 現場社員との座談会。「エンジニアに必要なこと」について討議・発表
- 店舗での売り場作り体験（グループワーク）
- 設計図をもとにカット・研磨・塗装・ラッピング
- 一般企業が抱える問題（課題）の解決策（ディスカッション、プレゼン含む）
- グループワークの中での新規事業提案や社会課題の解決策の提案
- 論理的思考法について
- 自己紹介を作成し、「人に好かれる為の力」をプレゼン

■ 「2～10 営業日」

- 新商品と新CMの提案
- 研究施設にて農業機械や建設機械の試乗
- 10年後における新規事業の立案
- 売上高を達成するための具体的戦略を立案せよ
- 取引先企業(中小企業)で1日間実習し、経営者や従業員の方からも業務内容だけでなく、社会人、働くことについて学びます
- 「2030年総合商社進化論」をテーマに、予め営業グループごとに設定した分野別について、2030年の各分野でのあり姿をまとめてもらう
- 担当フロアにおいて顧客の再来店を促進するための企画を考え発表
- プログラミング体験
- 不良品に対する対応の提案

■ 「11 営業日以上」

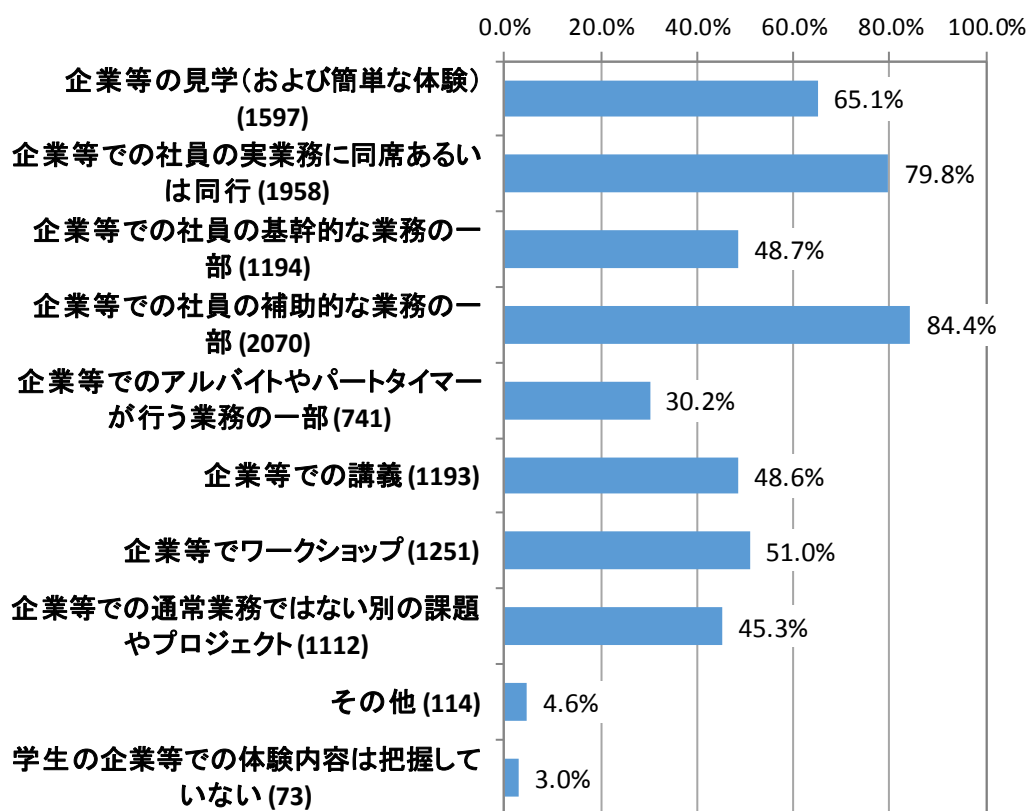
- 車輛の故障履歴等を分株し改善方法を提案
- 部品の洗浄および組立作業
- 既商品のプロモーション企画・プレゼン演習など
- ○○県が今後直面するであろう課題（高齢化、サービス等）に対して、学生にインタビューする質問を考えさせ、県内複数企業に実際にインタビューをしてもらう

③大学

- 大学が実施したインターンシップの内容は「企業等での社員の補助的な業務の一部」が 84.4%と最も高く、次に「企業等での社員の実業務に同席あるいは同行」が 79.8%となっている。

問12-1:本インターンシップの内容についてお答えください。(あてはまるものすべてを選択してください)

図表 2-7 1 インターンシップの内容 (n=2454)



問12-2:本インターンシップのプログラム内容を簡単にご紹介ください。(自由記述)(抜粋)

■ 「1日」「2日～1週間未満(2～5営業日)」

- ①仕事の基本(受付から納車まで)、社会人としての基本(挨拶、礼、言葉使い)を学び整備士の仕事を理解する。②各自の目標、設定に対し、自己評価し報告
- 各企業での職業体験、帰任後のレポート作成、報告会の実施
- 本学院で用意している統一的なプログラムはない。インターンシップを希望する学生が自主的に公募に応じるなどして研修先を探すことを基本ルールとしている
- 本学との協定・連携先において、夏季休業期間中に30時間(原則5日間)のインターンシップを実施。4月初めに開催するオリエンテーションに参加し、さらに指定する事前指導・事後指導に出席することを条件とする
- 学生が参加したインターンシップに対し、単位を認定している
- ホテルの受付、ホテル内レストランでの給仕、旅行業での旅行プラン作成、旅行業での事務、販売業での接客
- 見学体験型、講義型、プロジェクト型、実践型など
- 病院ないし一般企業で、3～4日間の現場実習を体験する。これに先立ち現場実習のための準備として事前指導(仕事や就職活動の方向性の確認と、現場実習に向けての履歴書の作成やビジネスマナーの習得)を行うとともに、現場実習後はそのまとめなどの事後指導(報告書の作成と報告会など)を行う
- 空港における旅客案内、搭乗手続、手荷物受託搭乗案内に関する基礎知識の修得及び実習体験、空港業務全般についての見学
- 震災復興支援の現状を把握し生産者と消費者を結びつけるマーケティングに挑戦

■ 「1週間以上2週間未満(6～10営業日)」

- 地域の学校での教育活動にボランティアとして参加し、特別な支援を必要とする子ども達の支援活動等を通して子ども理解を深めるとともに教員の職務内容についての理解を広める
- 大学で修得した学問と現場での実践との融合を図り、基礎科学とその応用についての理解を深めることを目的として、理学部の教育課程に基づき理学部の学生が取りまとめ団体の会員企業等において就業体験を行うもの
- 舞台芸術関係の施設(劇場・音楽ホール等)ないしは舞台芸術関係の団体・機関等(音楽事務所、芸術団体の事務局等)における実務体験。インターンシップ先は、学生の希望により、学生自身が受入れの内諾を得てくることを原則としており、実習内容についても学生が受入れ先と相談してくることにしている
- 学生自身に企業開拓を行ってもらい、10日間の実習、報告を経て単位取得
- ホテル接客業務(案内、シーツはがし、レストランサービス)
- 老人ホーム調理・栄養士業務(調理、献立、発注)
- 10日間(週5日×8H)、企業で実際に就業体験を実施。実施した内容は日々実習日誌に記入し、企業側でも評価して頂く。実習後は振り返りレポートを作成、年度で「報告集」としてまとめ、次年度の対象学生へ配布を実施しています。実体験の中で「就業することの意義」を学びます
- 法学部の学生のみを対象に、夏季休暇中の1～2週間、法律知識を活用できる企業法務部や司法書士事務所就業体験ができるプログラム。事前研修として「ビジネスマナー&コミュニケーション講座」、事後学習として実習学生と受入企業による報告会を実施する

- 意匠設計事務所、構造設計事務所等の一級建築士の指導のもとで業務を体験し、実習終了後は作成した図面や構造設計、工事監理補助に関するレポート等を提出する。指導教員との連携のもとに事前指導、事後指導を行う
- 販売基本知識座学・ロールプレイング等 実習

■ 「2週間以上（11営業日）1か月未満」「1か月以上3か月未満」「3か月以上」

- 多くのケースでは学生が自ら受入先を探し、国内外でインターンシップ先を開拓
- インターン先は、企業、官公庁、NPO等多岐にわたります
- 研究所/コンサルでのインターンシップであり、研究活動の延長に位置づけている
- 4週間の期間、建築士の業務であるところの、意匠設計あるいは構造設計、施工監理、その他補助業務に従事する。具体的には企画・提案や図面の作成、構造計算、模型制作、顧客との打合せや担当者会議への参加など
- 学生向け賃貸物件に関する事務、学生（顧客）のご案内（内見）、チラシのポスティングなど
- 企業が抱えるビジネス上の課題をテーマにプロジェクトを設定し、大学生がそのテーマに取り組む。28年夏休みのプロジェクト型インターンシップでは、観光業（特に、ホテル・旅館業のプロモーション映像制作に取り組んだ）
- 企業の法務・知的財産部門等で、法学が実務上どのように活用されているのかを、実際の企業内で見聞し、勉学の深化に役立てる機会として、1週間～3週間程度のインターンシップを開催している
- 主に醸造業の現場の作業を2週間にわたり体験する。実際の作業体験を通じて、大学の講義や実験の内容をより深く理解することを目的とする
- 本インターンシップは、約3ヶ月間の海外研修プログラムの一環として実施している。インターンシップ実施期間は約1ヶ月間で、シリコンバレーをはじめカリフォルニア州で活躍する日系企業などにおける就業研修を通して、職業現場で求められる人的資質及び、国際コミュニケーション能力について具体的な体験を通して学ぶことを目的としている